

黄金水大盡盃上の巻

^13
3910
2



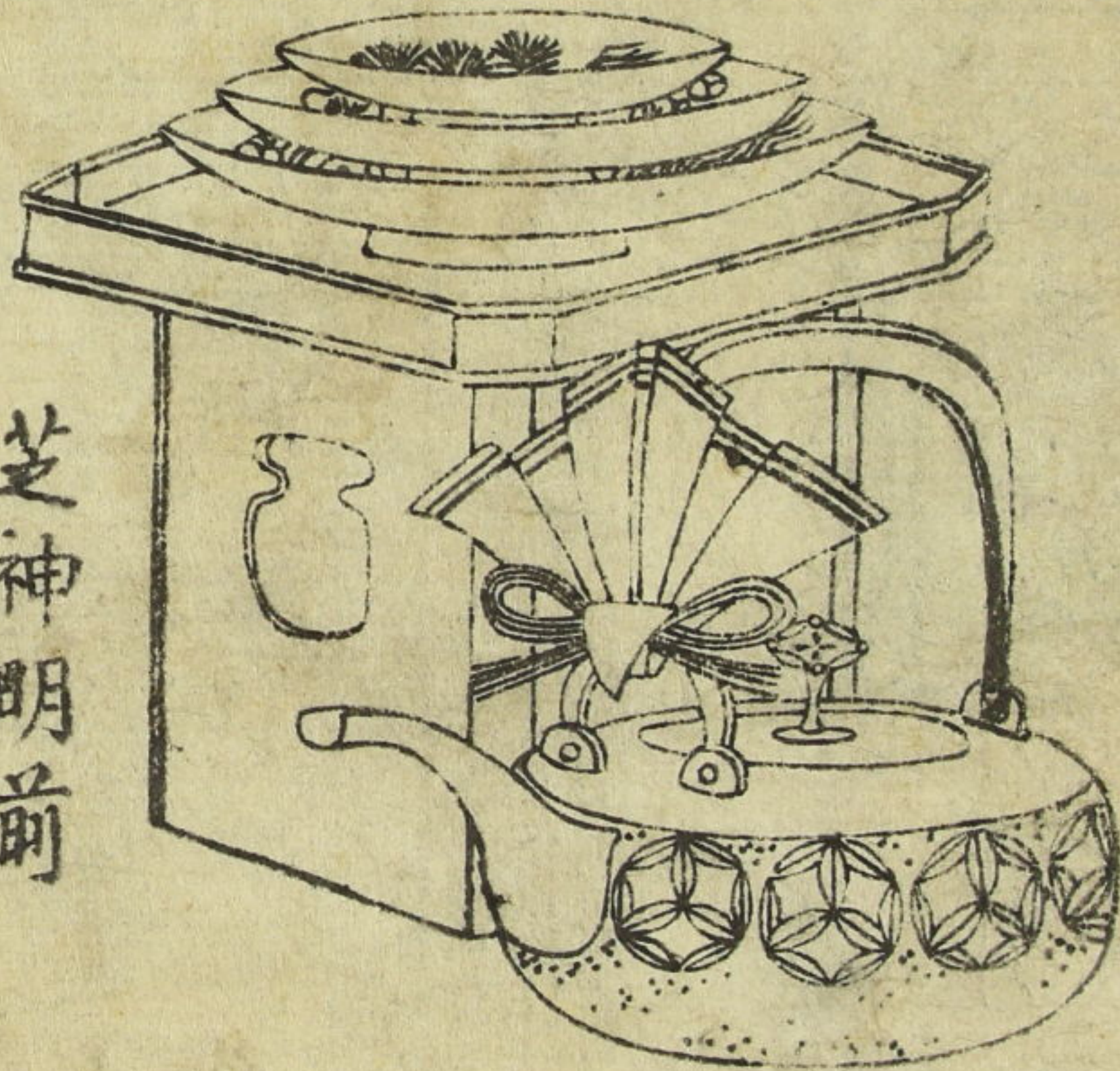
門 へ13
號 3910
卷 2

黄金水

大盡盃

上冊

為永春水作
一雄齋國輝画

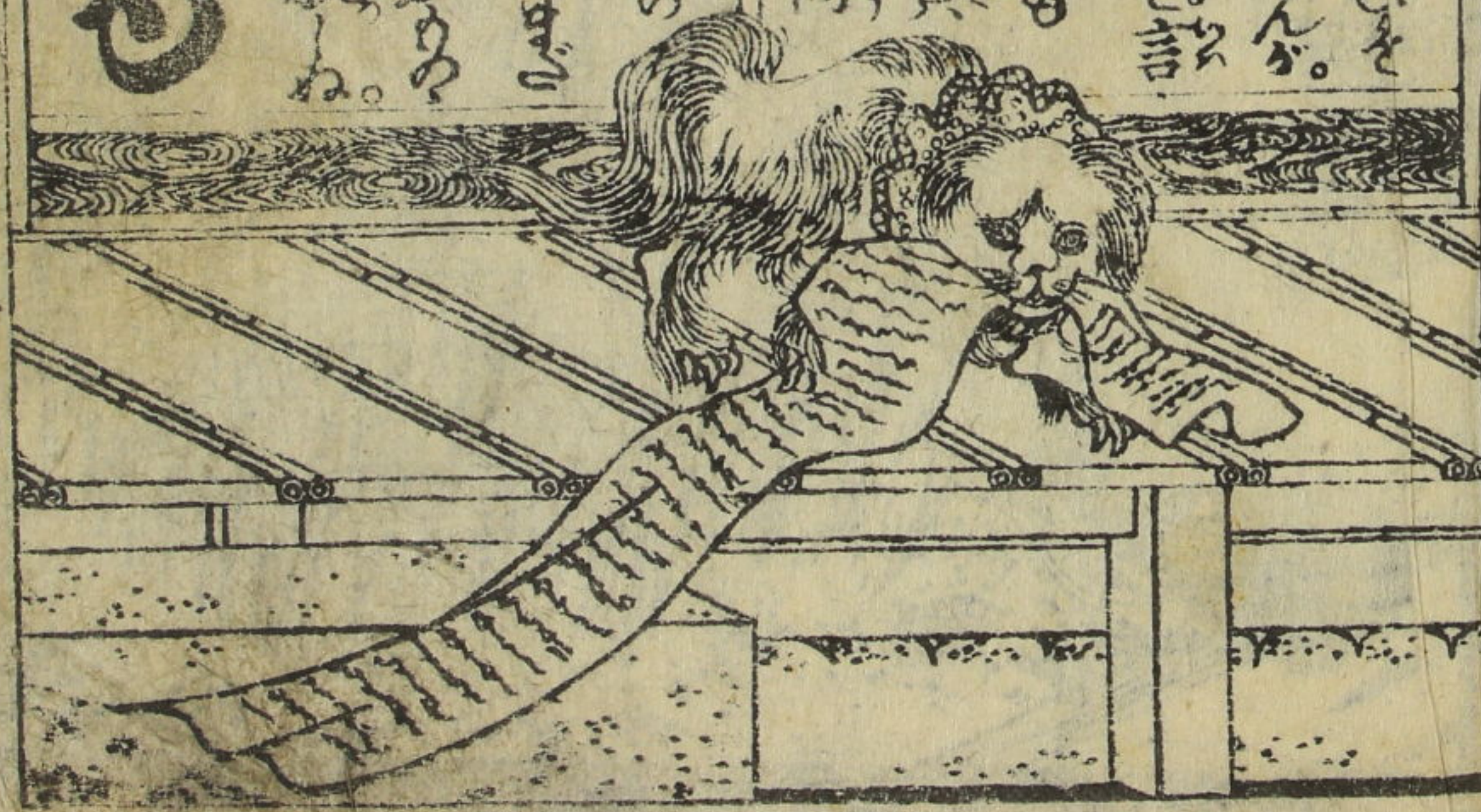


芝神明前

泉市板

出格子窓小冠木門四時前の藥取ら玄關へ大いびを
とるやうなればは匠者もとなく流行口板元の小僧ごんが
居催促の居眠か為倦てせることなるまとると言
さるやうにさまとればは作者もあめて物れども
开は先哲のうへゆて咱們どれいふあらば其負
冥加で此年紀人並ふ策子の綴と筆頭も赴向

と盛生の術を知らねば多く薬取より看直の
先へ大びを催しもひ居眠為倦く這本の濟のいまに
てこのままとるとは子様がいふ言はれば果ていふ言はりの
己られぬ言はれば懲らふふ復第四編の稿を脱しぬ
し卯孟春 為永春水記



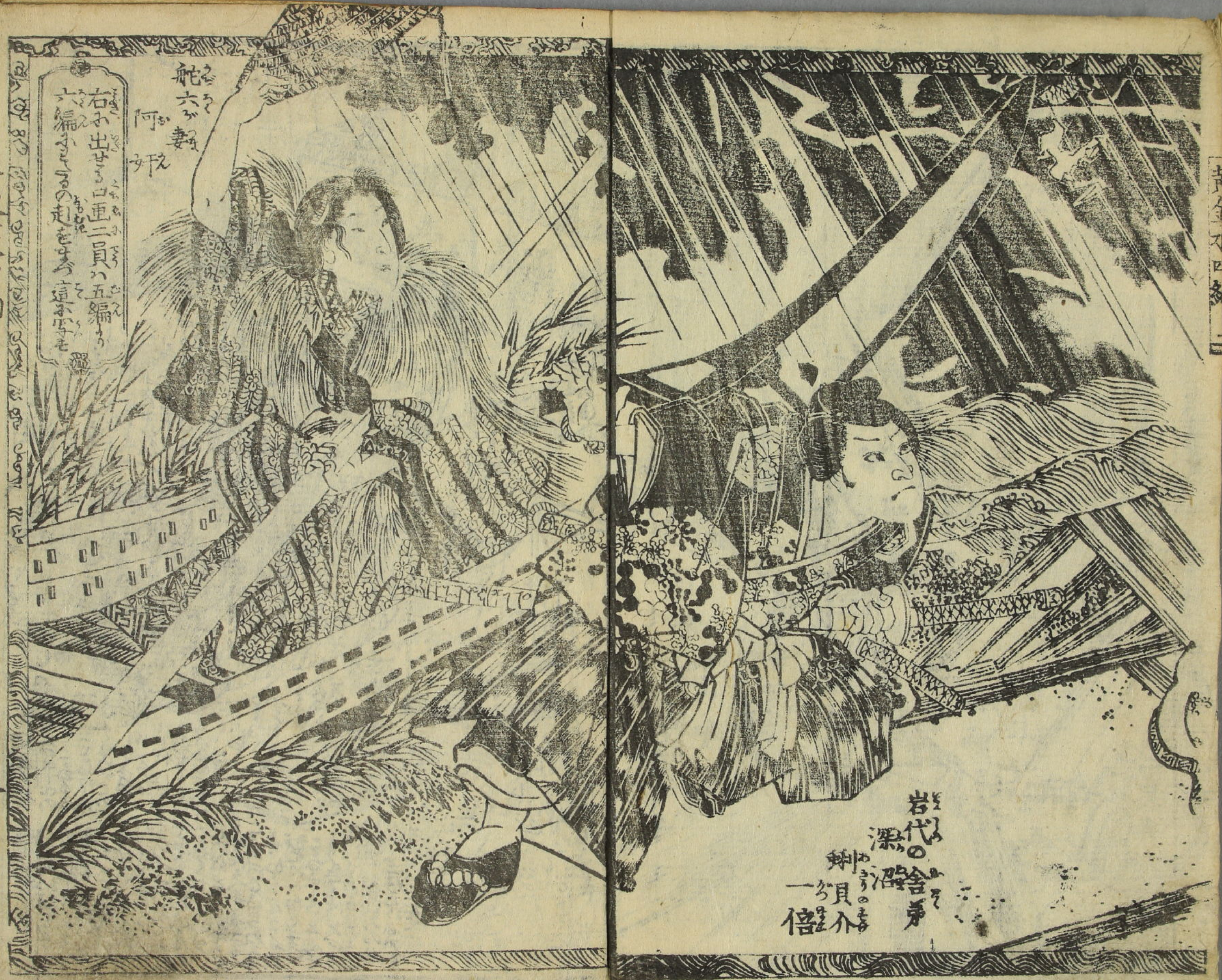


阿妙



由良家の忠臣の
笠岡内記
辰行

古事記



右の編み

右に
出せ
口連二員
五編
六編
の
起
き
ま
す
這
お
す
も

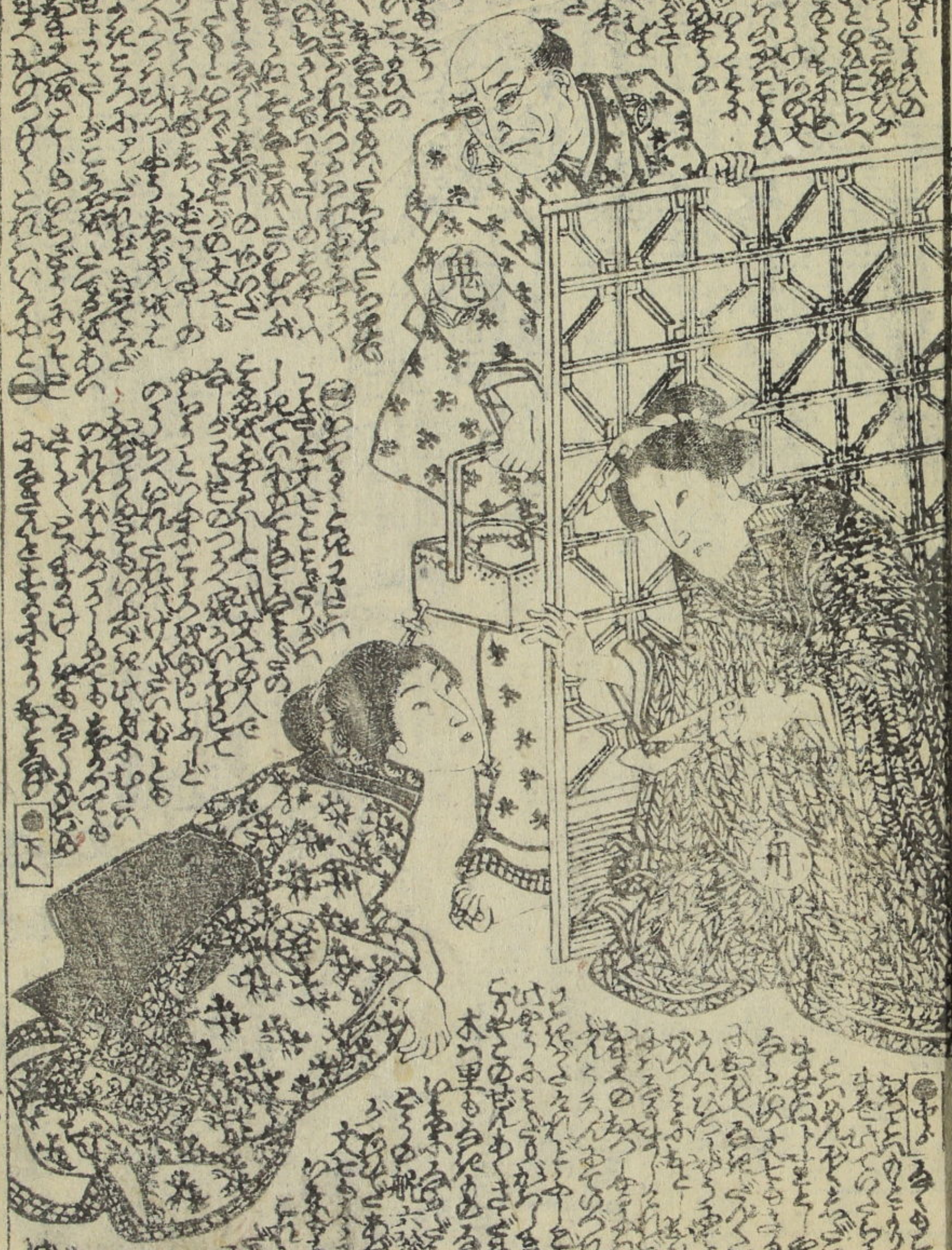
船
六
妻
阿
好

岩代
深
の
沼
舎
弟
辨
一
介
倍

土
氏
三
寸
四
分
二

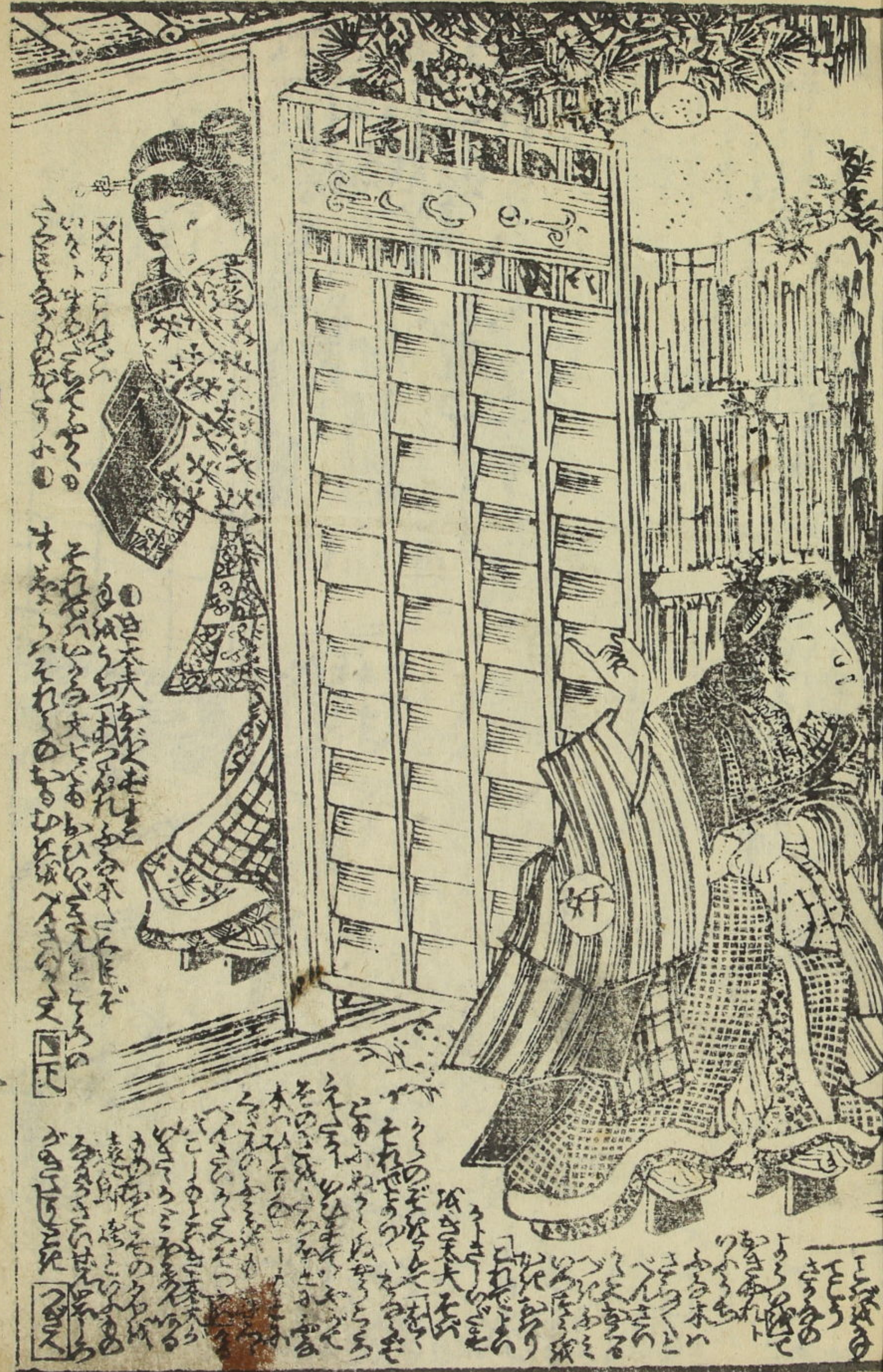
木下ノ口

Vertical columns of handwritten Japanese text on the left page, surrounding the illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text on the right page, surrounding the illustration.





二八八〇三冊

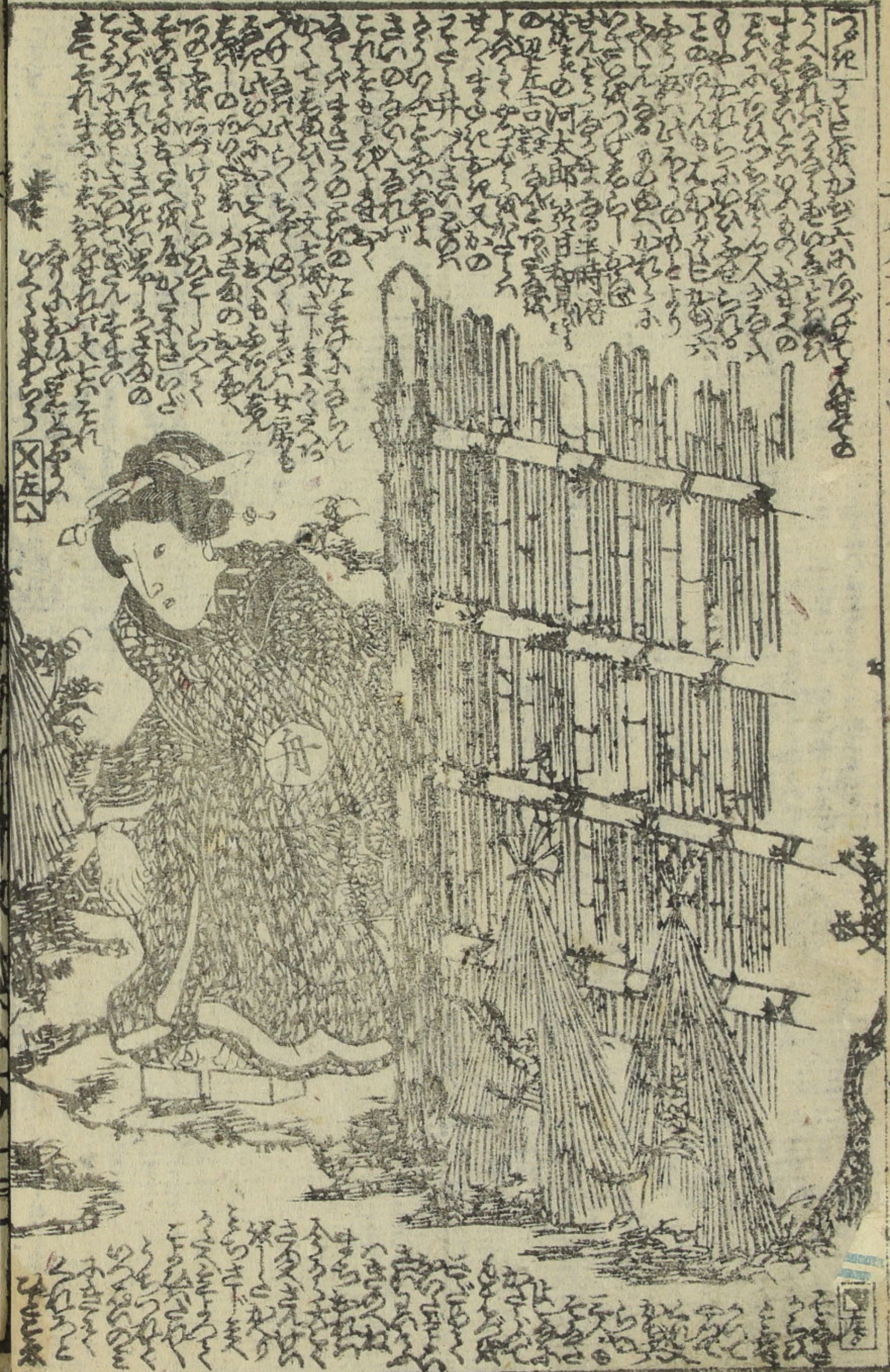
○此の女は...

○此の女は...

○此の女は...

○此の女は...

○此の女は...



二八八〇三冊

○此の女は...

○此の女は...

○此の女は...



Vertical Japanese text in the upper left corner of the illustration, likely a chapter heading or descriptive text.

Vertical Japanese text in the lower left and bottom center of the illustration, providing further context or dialogue.

Vertical text on the far left edge of the page, possibly a page number or a reference.



Vertical Japanese text in the upper right corner of the illustration, likely a chapter heading or descriptive text.

Vertical Japanese text in the lower right and bottom center of the illustration, providing further context or dialogue.

Vertical text on the far right edge of the page, possibly a page number or a reference.

Handwritten text in vertical columns on the right page, likely describing the scene or providing commentary on the illustration.



Handwritten text in vertical columns on the left page, continuing the description or commentary from the right page.





曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作
黃金水大盡不血

柳亭種彦作

同
女郎花五色石臺

琴聲義人錄

十篇大尾

笠亭仙果作

同
小女郎知怨芋環

根源實紫

三篇大尾

柳下亭種員作

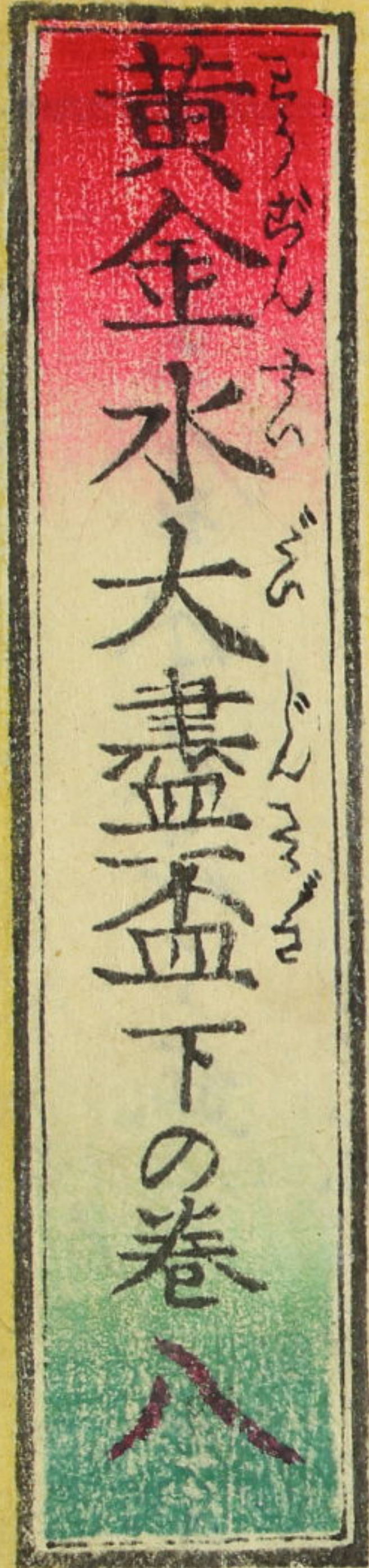
兒雷也豪傑譚

柳下亭種久作
假名
反古
一休草紙

黄金水大盡盃下の卷八

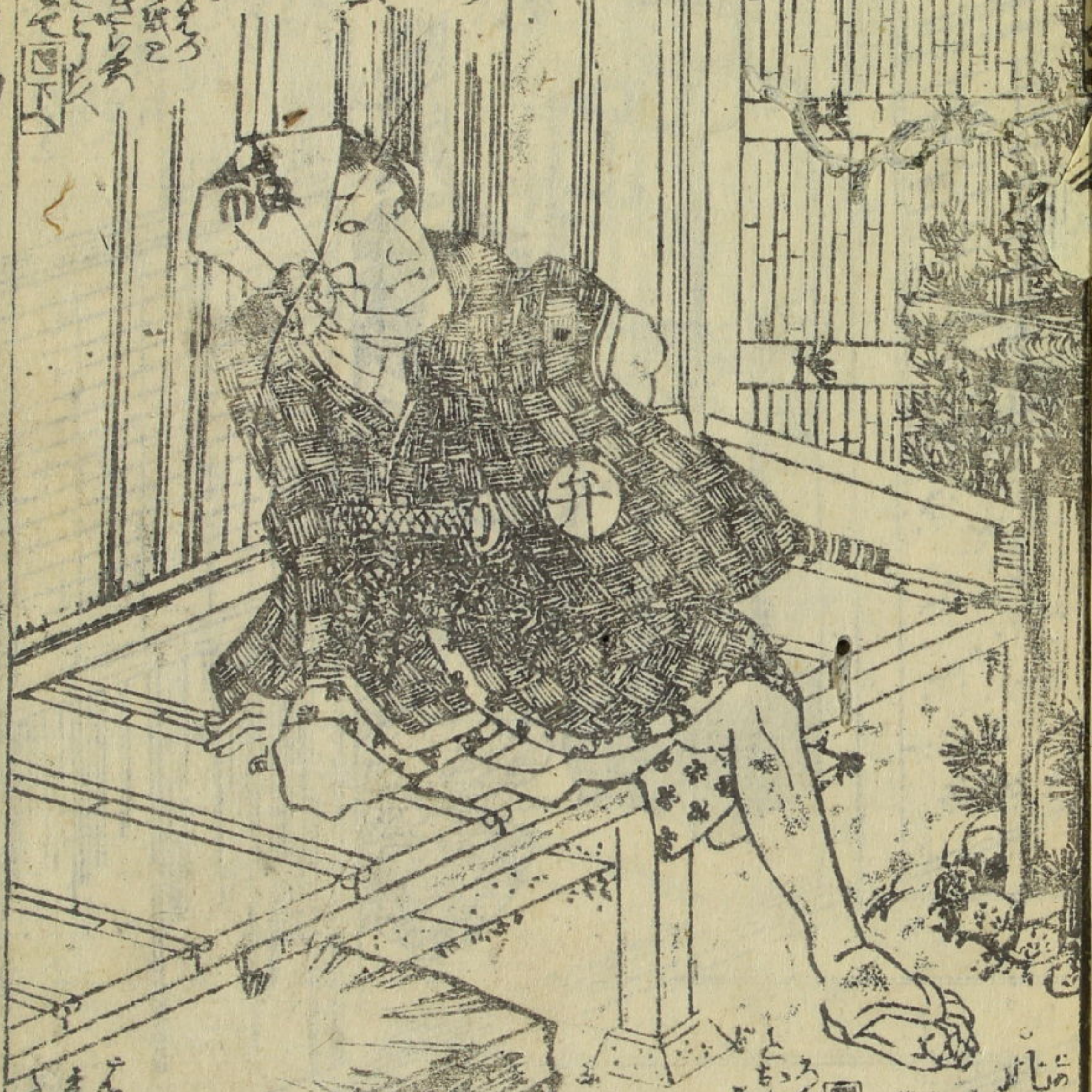
きんごうすいだいじんすい

八



Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely a preface or introductory text.

Vertical text on the left margin of the left page.



Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a note related to the illustration.

黄金水入り之盆

下の巻

為る

黄金水

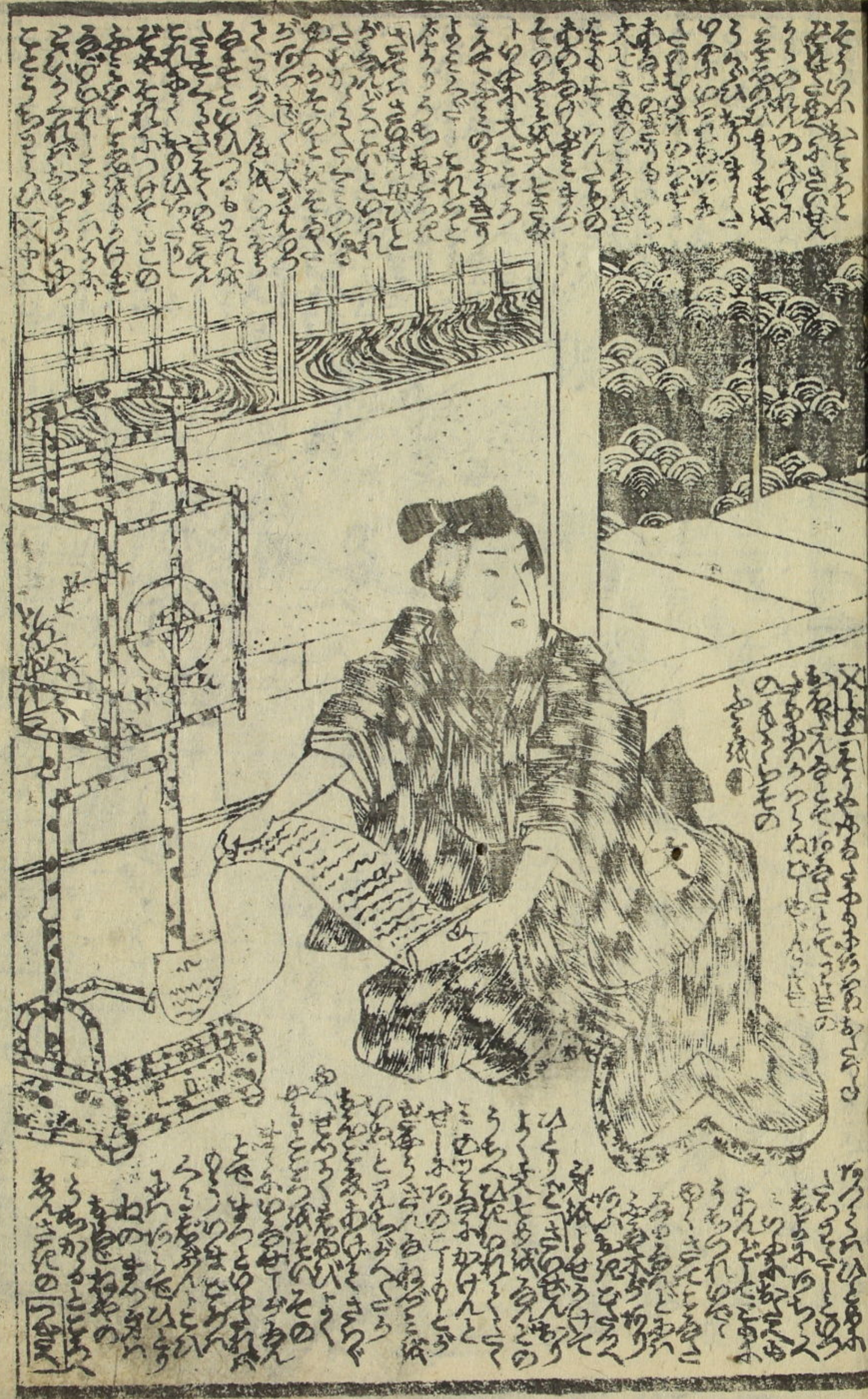
一巻



釋

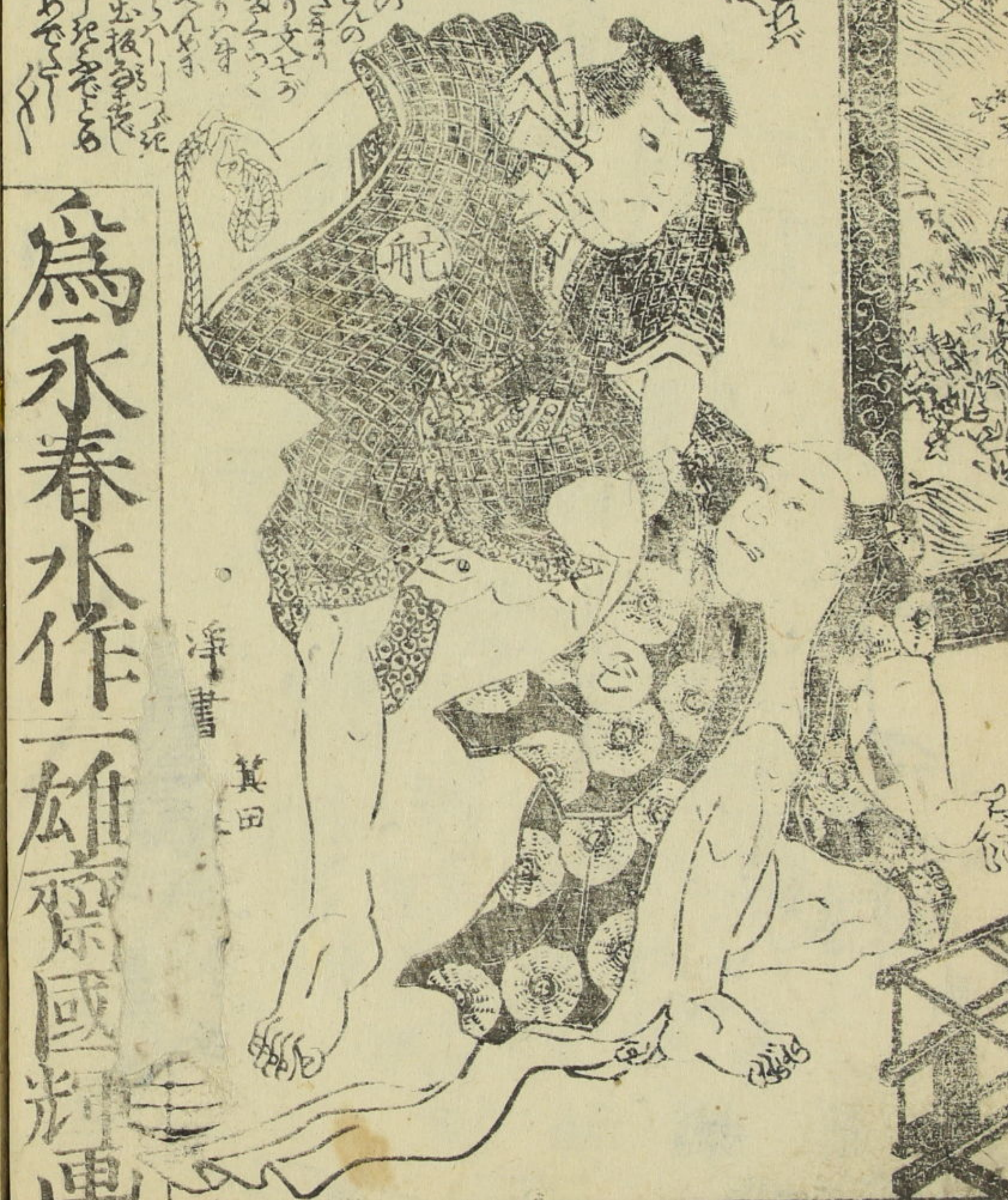
白泉堂





古今圖書集成

朝鮮牛肉丸 一色 百銅
身ひらぬおぎるひらん
けいせいのをぬまき
しんがのくひのふり
そのまじりついで
ふり
下金
野呂屋に漆崎氏製



為永春水作 雄齋國粹画

柳水亭翁水作

豊時田秋澗新雁

篇大尾

十返舎一九作 滑稽道中膝栗毛

柳水亭鍾清作

不思議塚小説櫻

柳水亭鍾清作

狂田姉妹新白石

同

同 風俗浅間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚

五篇大尾

出版人 京橋区銀座四丁目三番地 山中喜太郎

黄金水大盡盃上の巻九

目録
黄金水大盡盃
上の巻

九

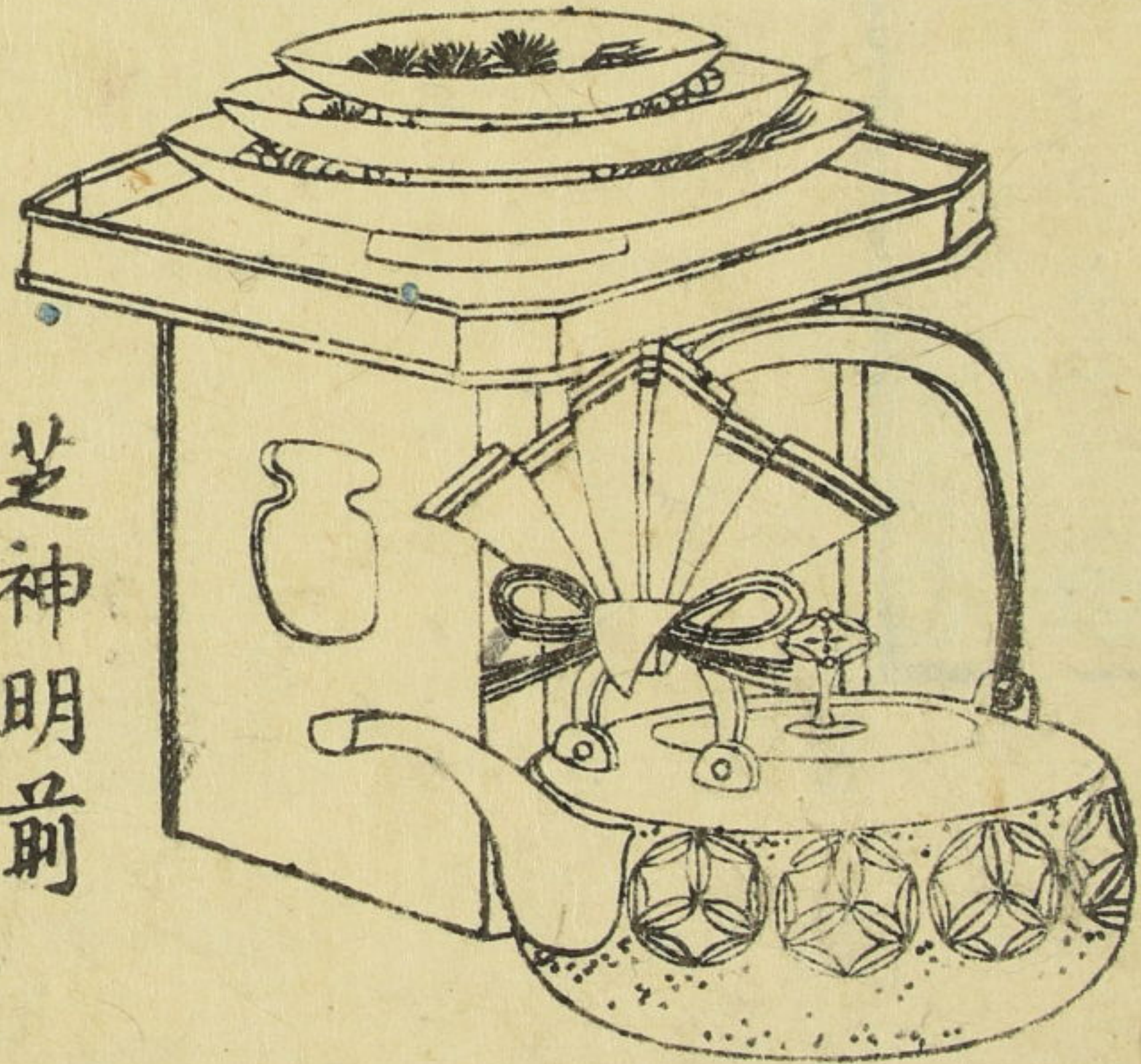


黄金水

大盡盃

上冊

為永春水作
一雄齋國輝画



芝神明前
泉市板



來年の夏に言へ鬼が笑を世の諺よ言ふるは。這へ來々年の
の新販と今松の極月くら草稿。迅い勝と甘泉堂の需
紙得手小帆紙のびく。文左が初度の鎌倉下り。這輯中
みく編つと四編の口画小見せまのせ。阿妙が人身御供の
段の預りさふありぬ。夫等い總く六編もて。埒を明へた
腹高るるむど。紀文がうへ言ふもさるる。續て其角一蝶等
が。滑稽酒落の傳も及ん。看宦多冊小倦らる。鬼も咲
よて禮ふ來る。その春毎ふ召せむいね。

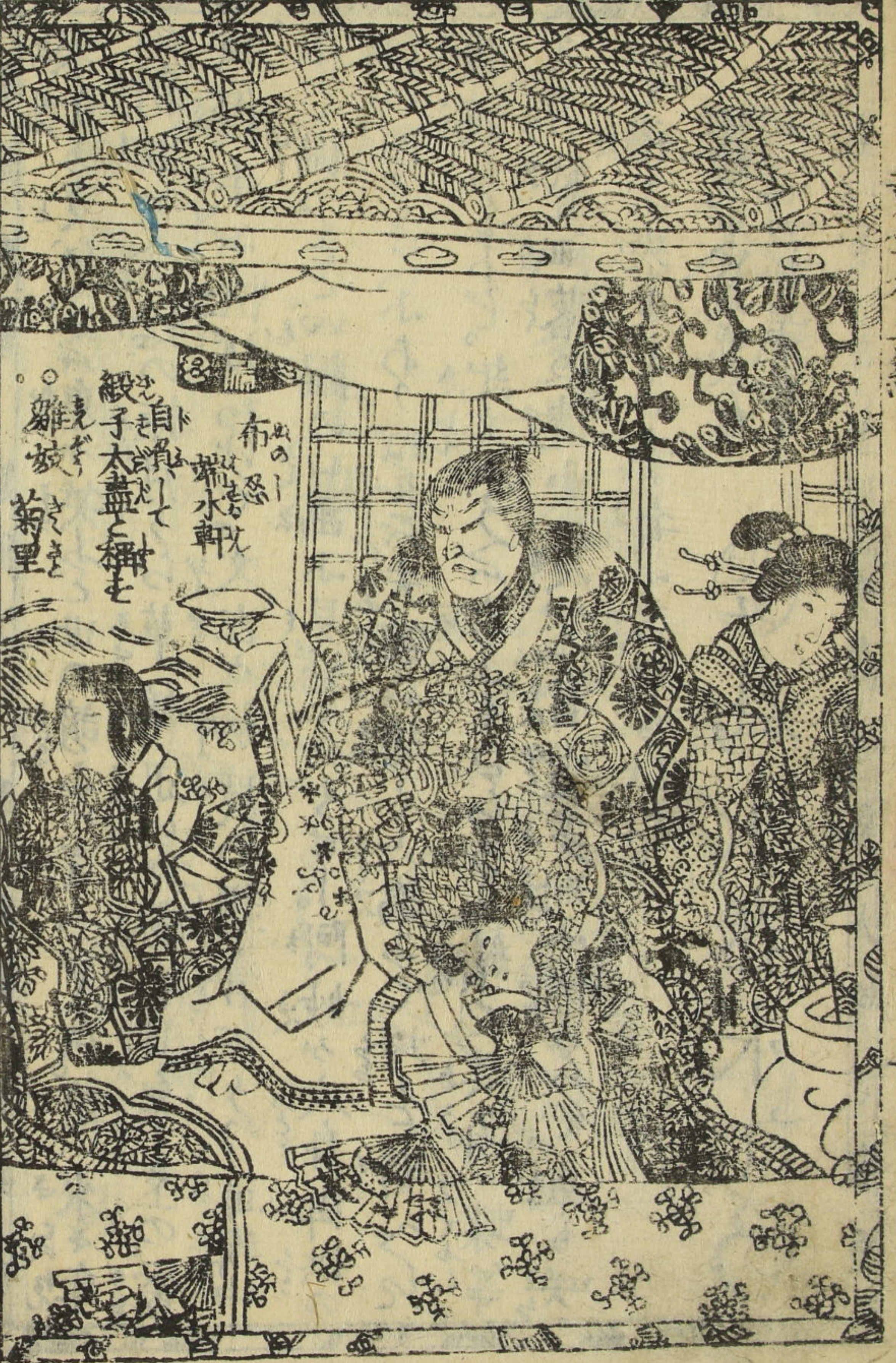
安政元甲寅歲晚冬稿
同三丙辰檢並春莖市

五 為永春水記焉

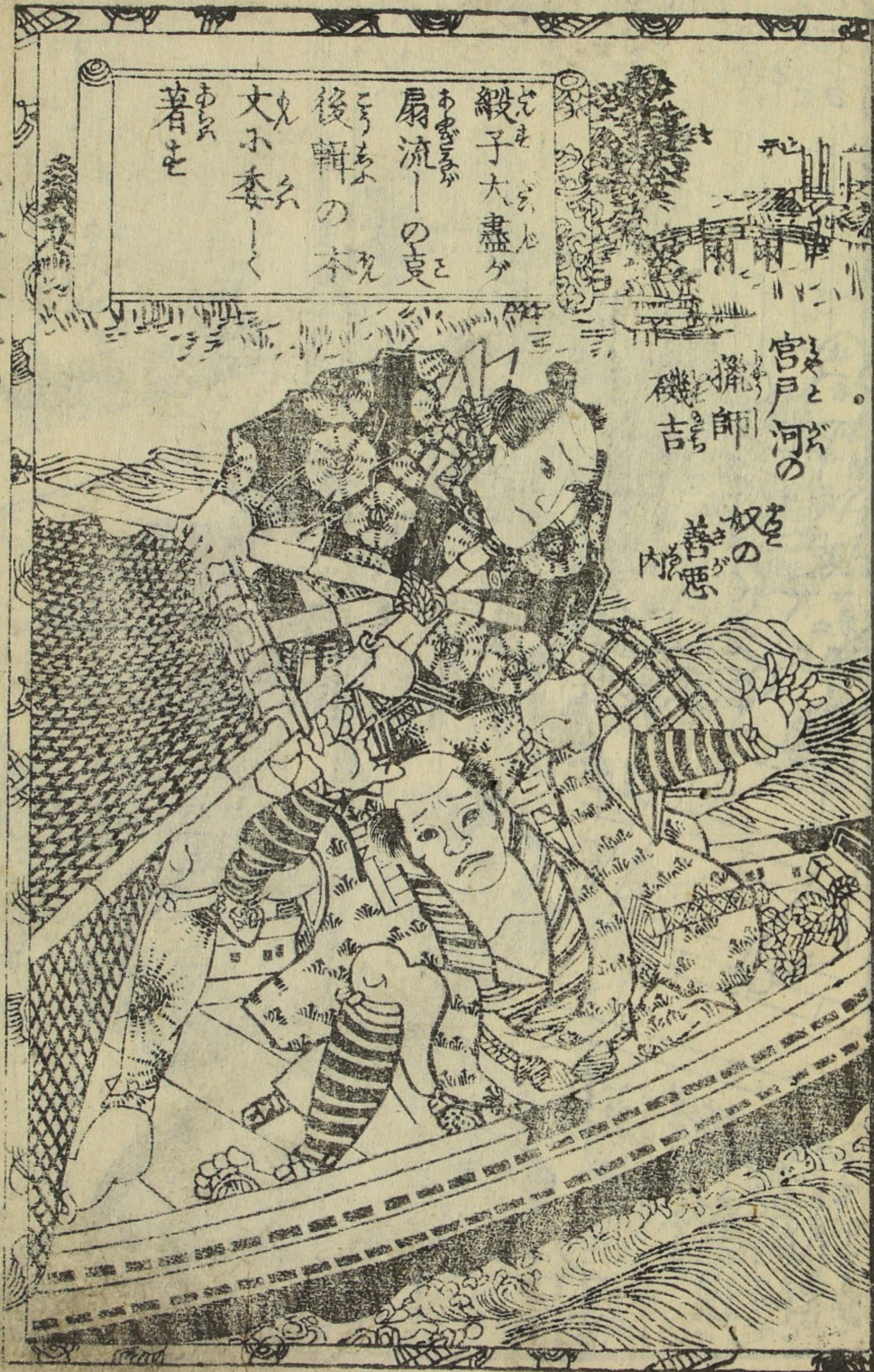
黄金水五編

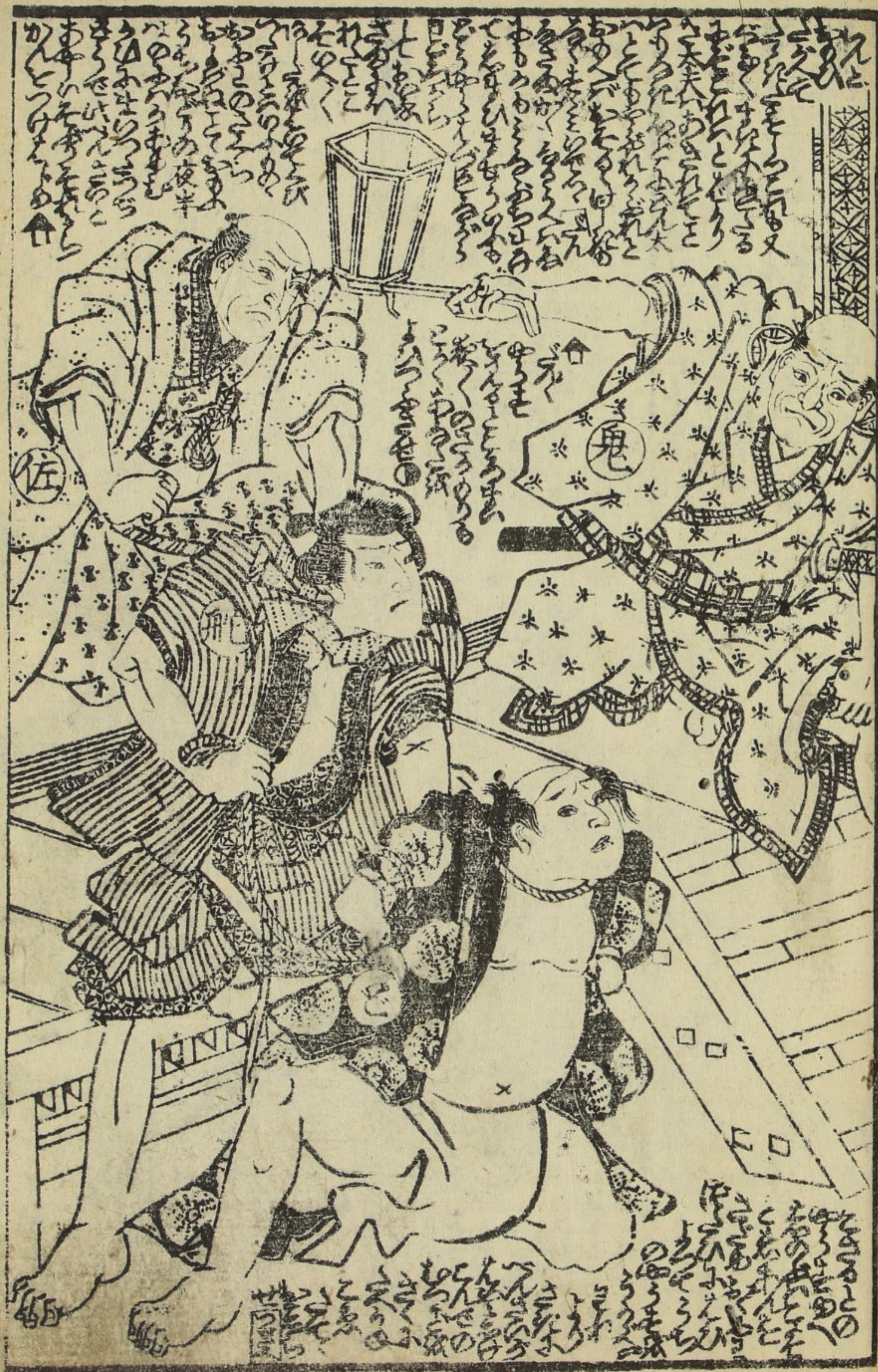


康が
 百の
 屋の
 門の
 雑比
 菊

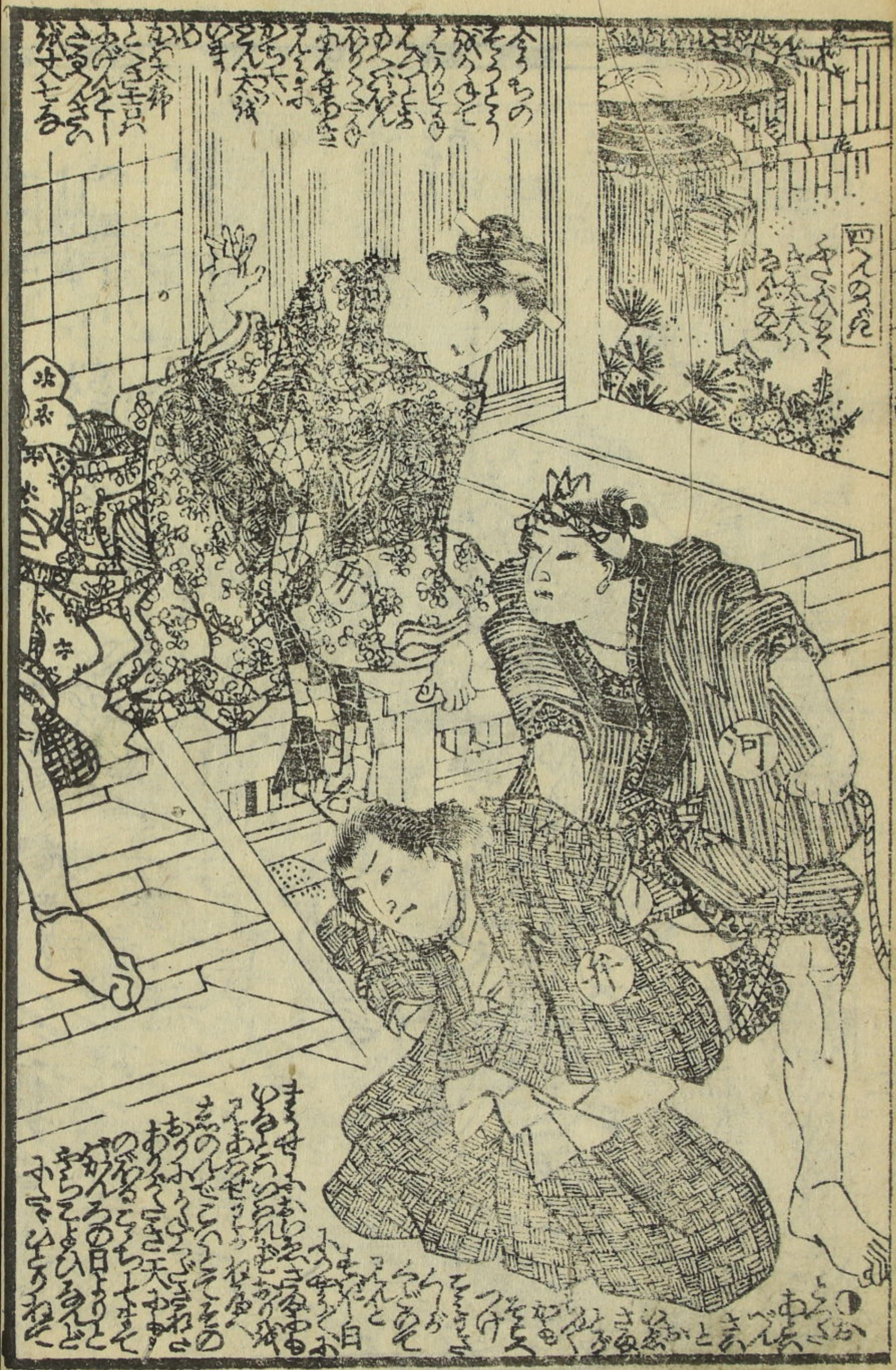


布の
 水軒
 緞子
 大盃
 雜放
 菊里

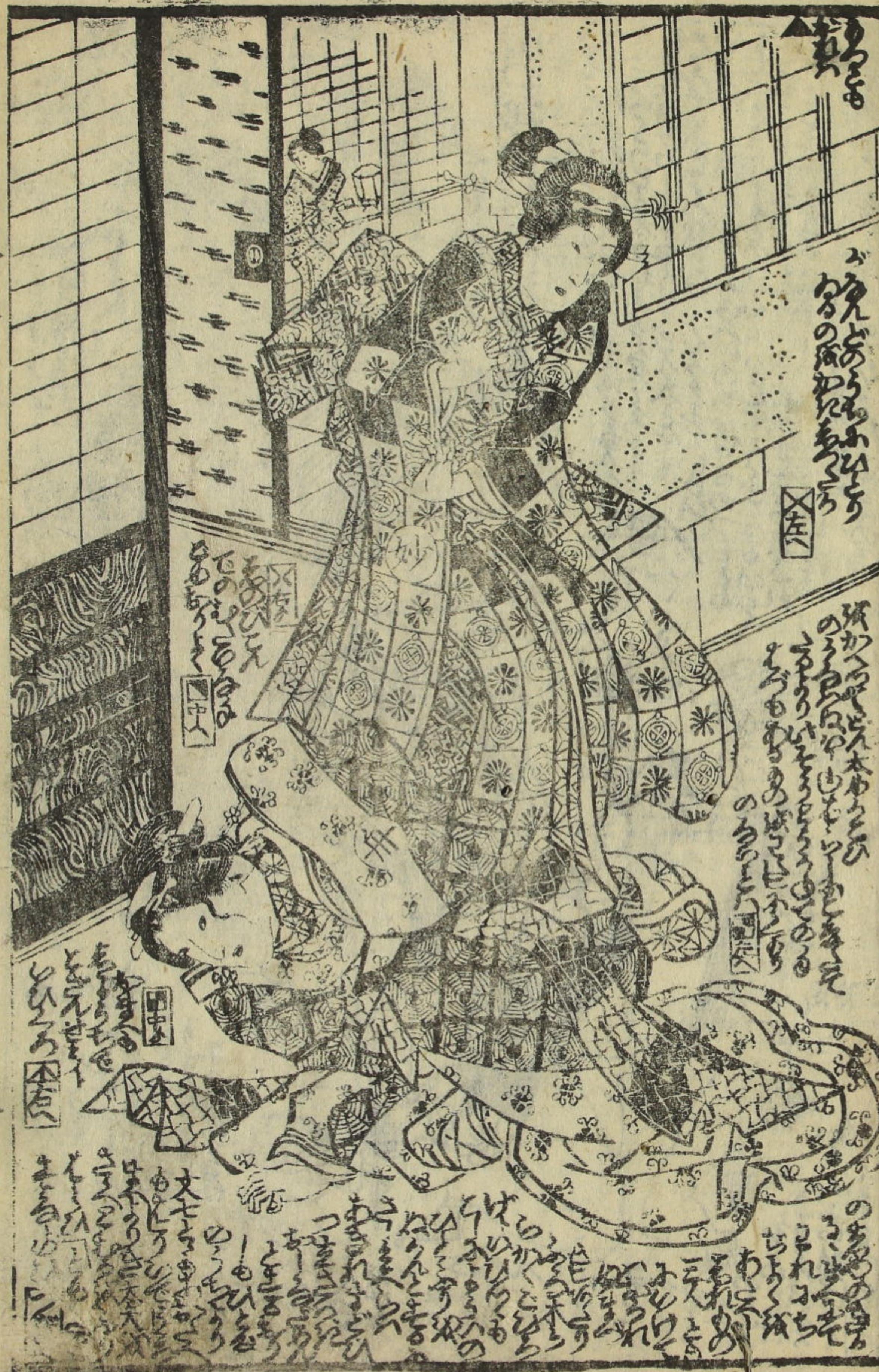




五ノ下



四ノ下



五ノ下

五ノ下

かゝるものあらはれり

左

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや



五ノ下

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや

左

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや

かゝるものあらはれり
 のうらなひもよもや
 さもよもやのうらなひも
 のうらなひもよもや

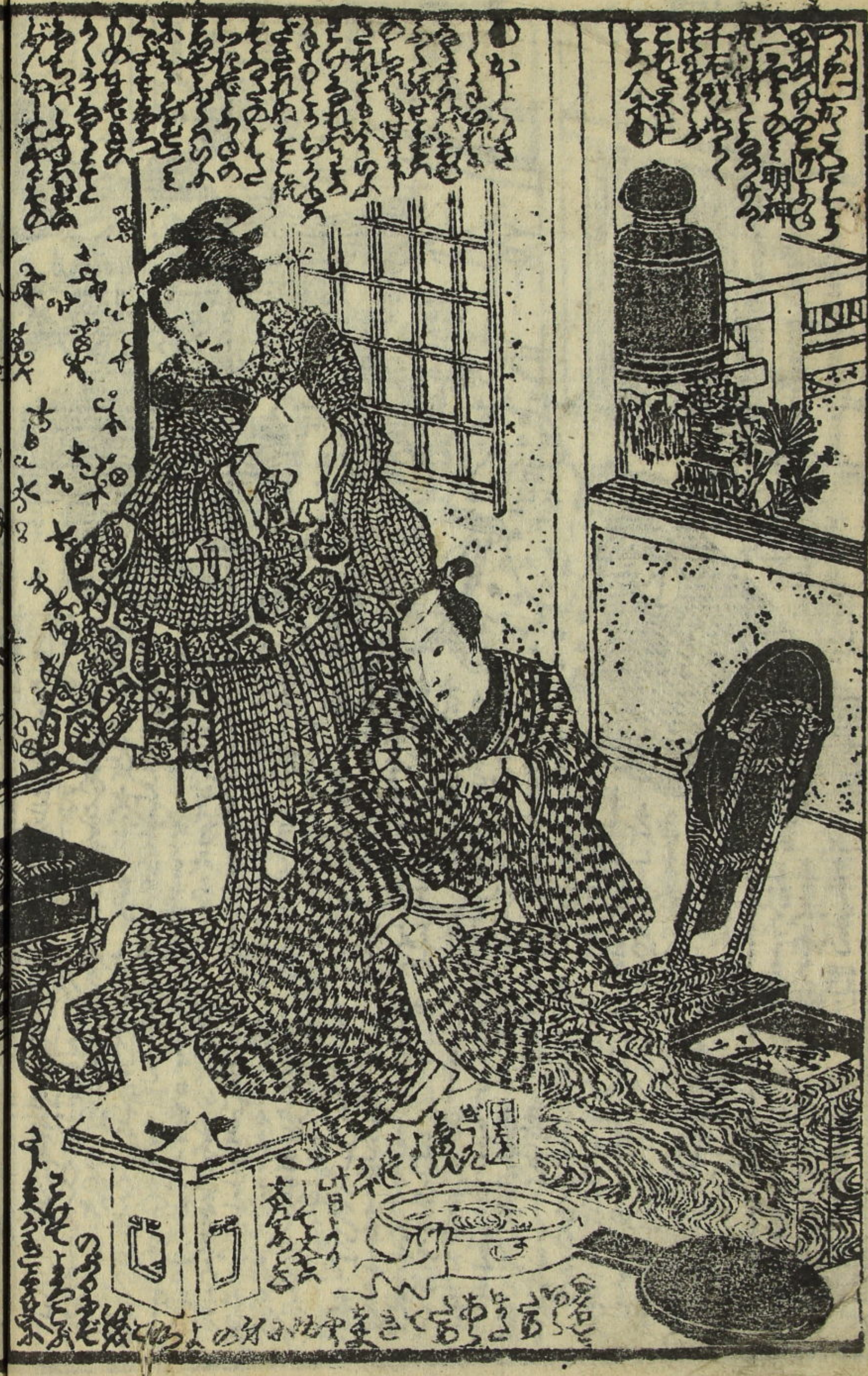


文七が... (Vertical text column on the top left of the illustration)

おかしな... (Vertical text columns on the right side of the illustration)

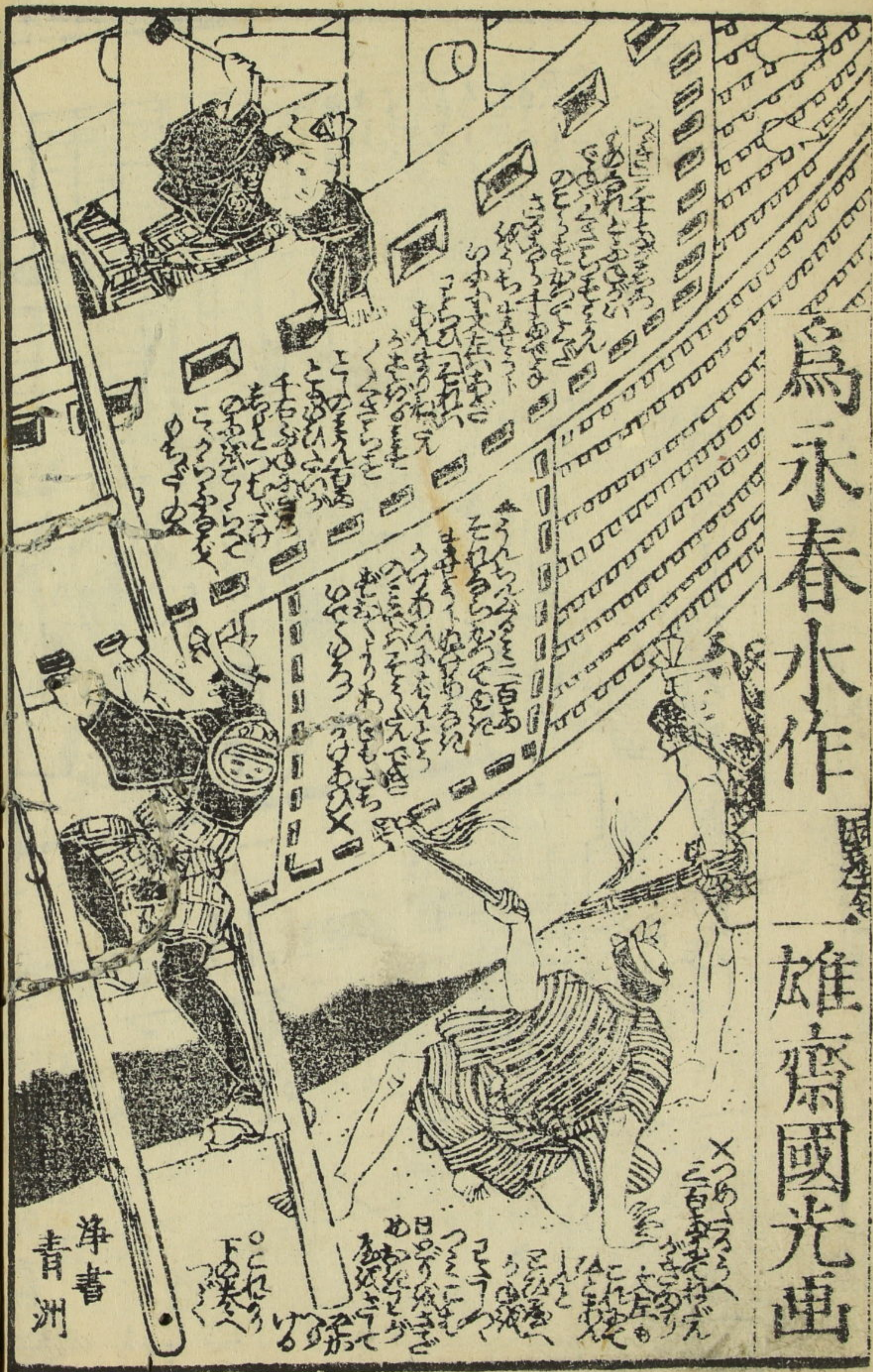


おかしな... (Vertical text columns on the left side of the illustration)



為永春水作

雄齋國光画



淨書
青洲

曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作

黃金水大盡盃

柳亭種彦作

同
女郎花五色石臺

十篇大尾

琴聲義人錄

笠亭仙果作

同
小女郎如怨芋環

三篇大尾

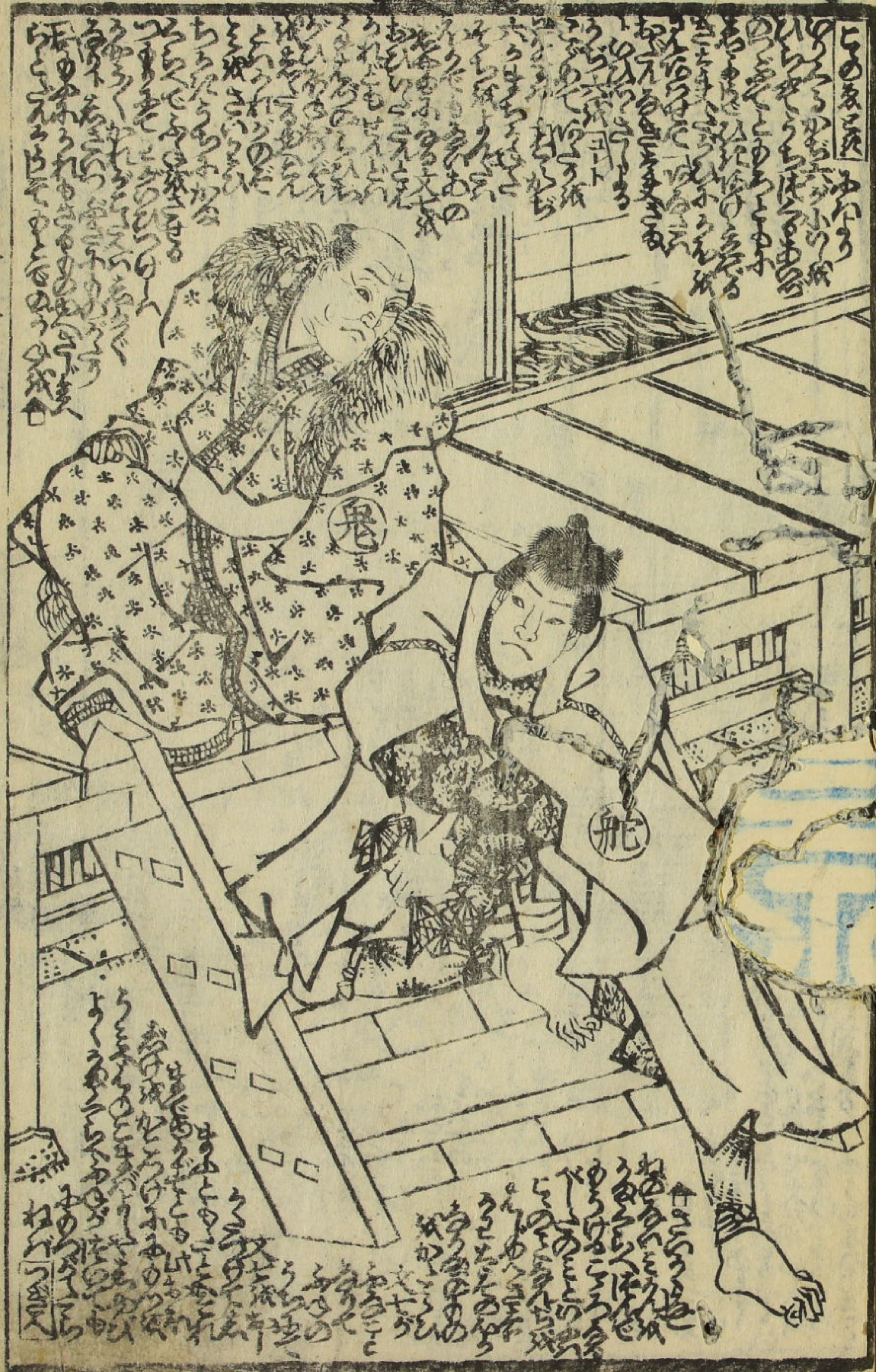
根源寶紫

柳下亭柳員作

兎雷也豪傑譚

柳煙亭種久作

假名
反古
一休草紙



黄金水入字と盆

下の巻

為る

真水作

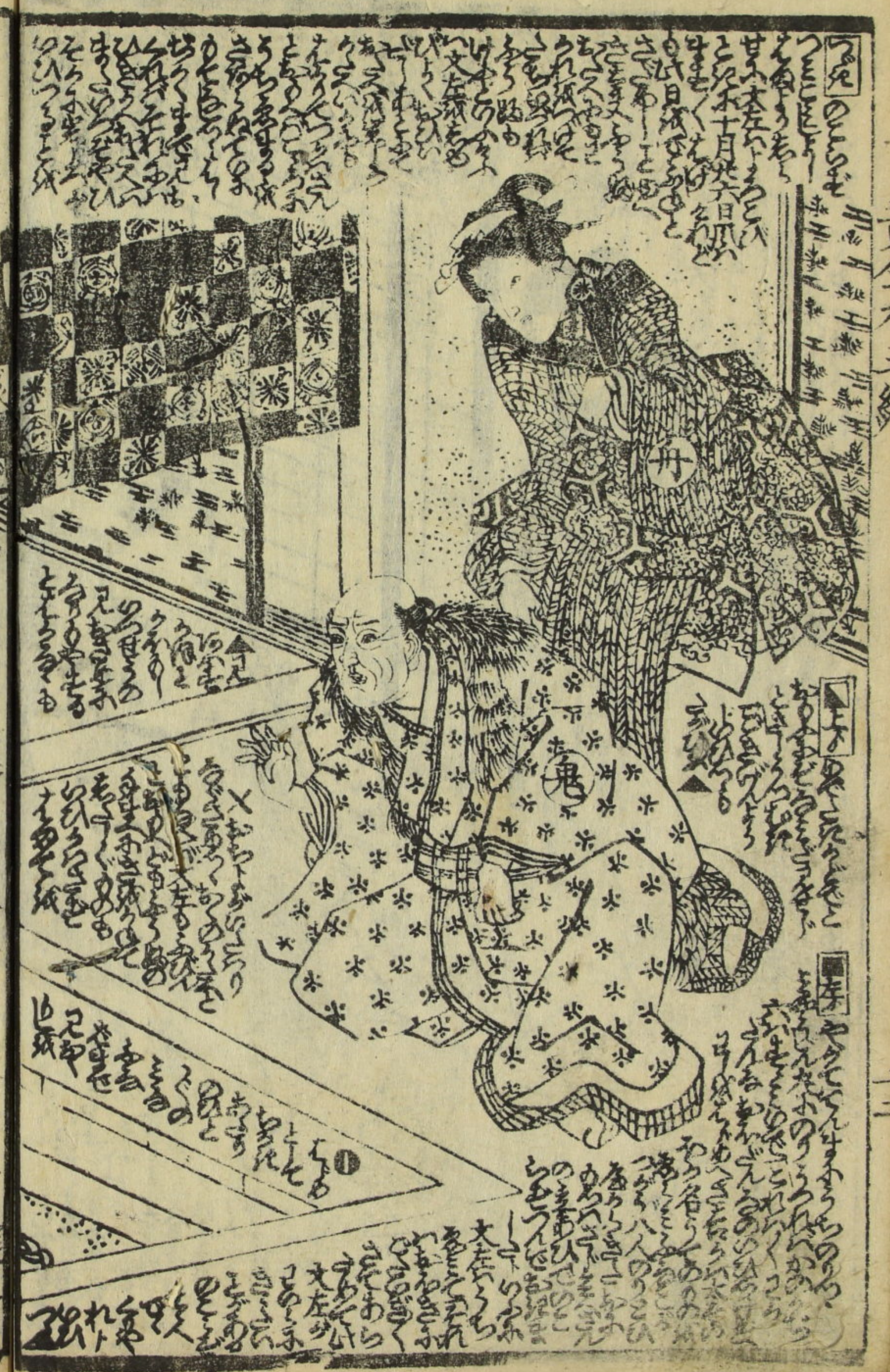
一梅実



甘水堂 印

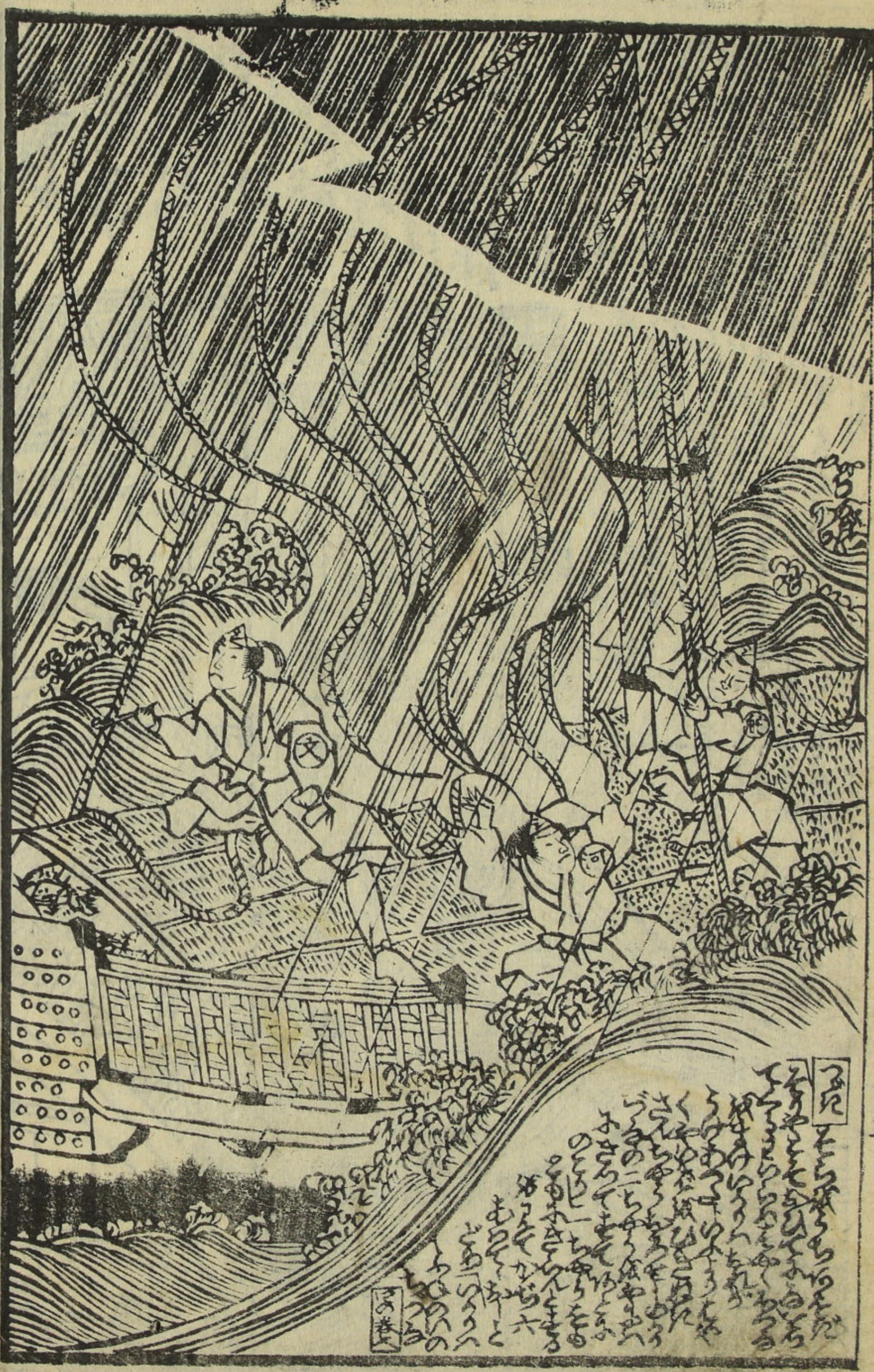


Vertical text on the left margin of the first page.



Vertical text on the right margin of the second page.



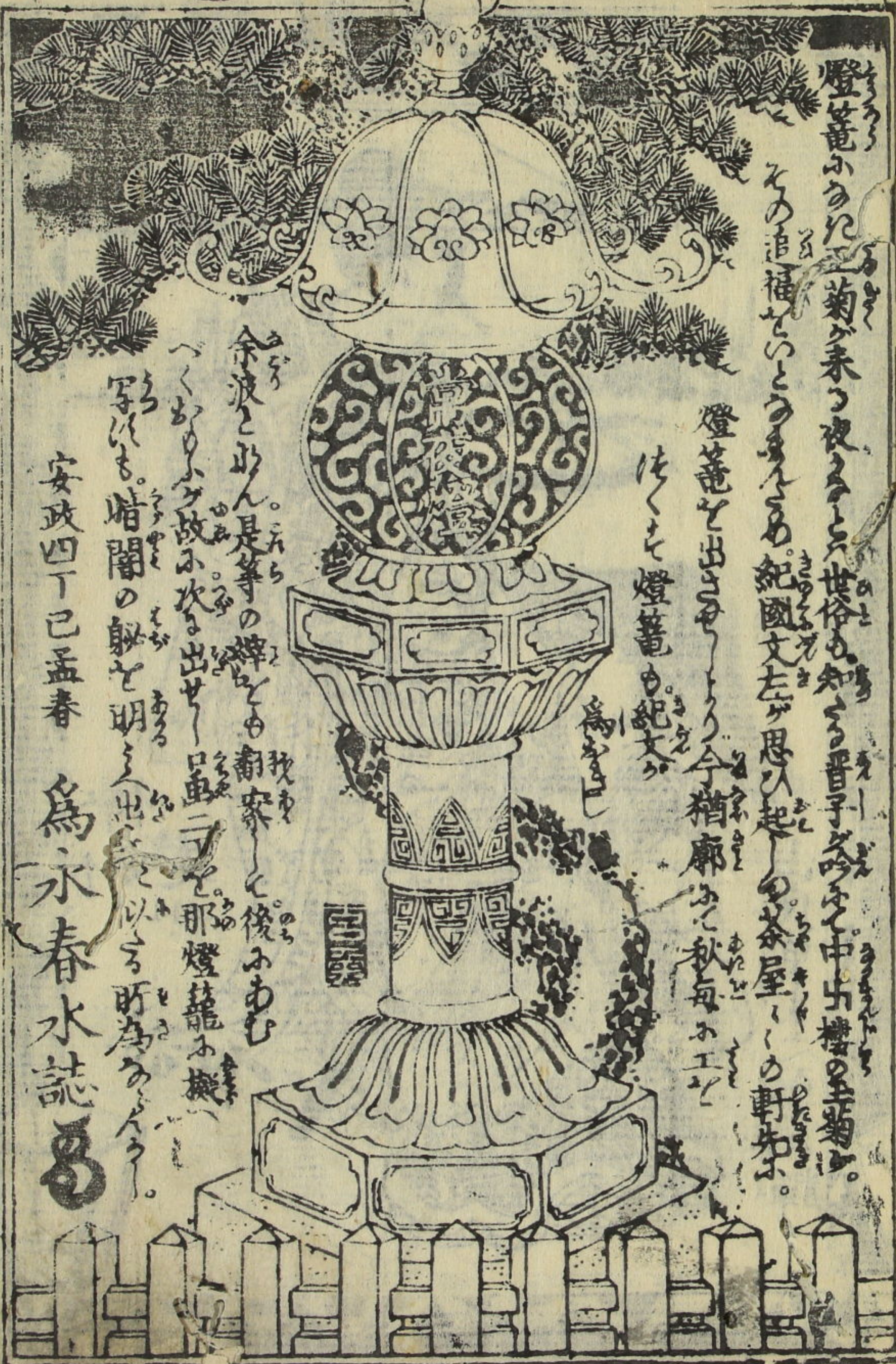




黄金水大盡盃上の巻上

エフノ
おん
すい
み
い
ん
ま
ん
じ

景景景
景景景
景景景
景景景
景景景



燈籠ふりて正菊を来つ夜ふると世俗も知る晋子と吟みて中出樓の至菊は
 その道福せいのとるまゝあり紀國文を思ひ起す茶屋の軒先

燈籠と出さるる今猶廓の秋毎の工
 是くと燈籠の紀文

余波とぬん是等の輝きも翻察と後あむむ
 写しも暗闇の軀を明と出さるる以て所為るべし
 安政四丁己孟春 爲永春水誌

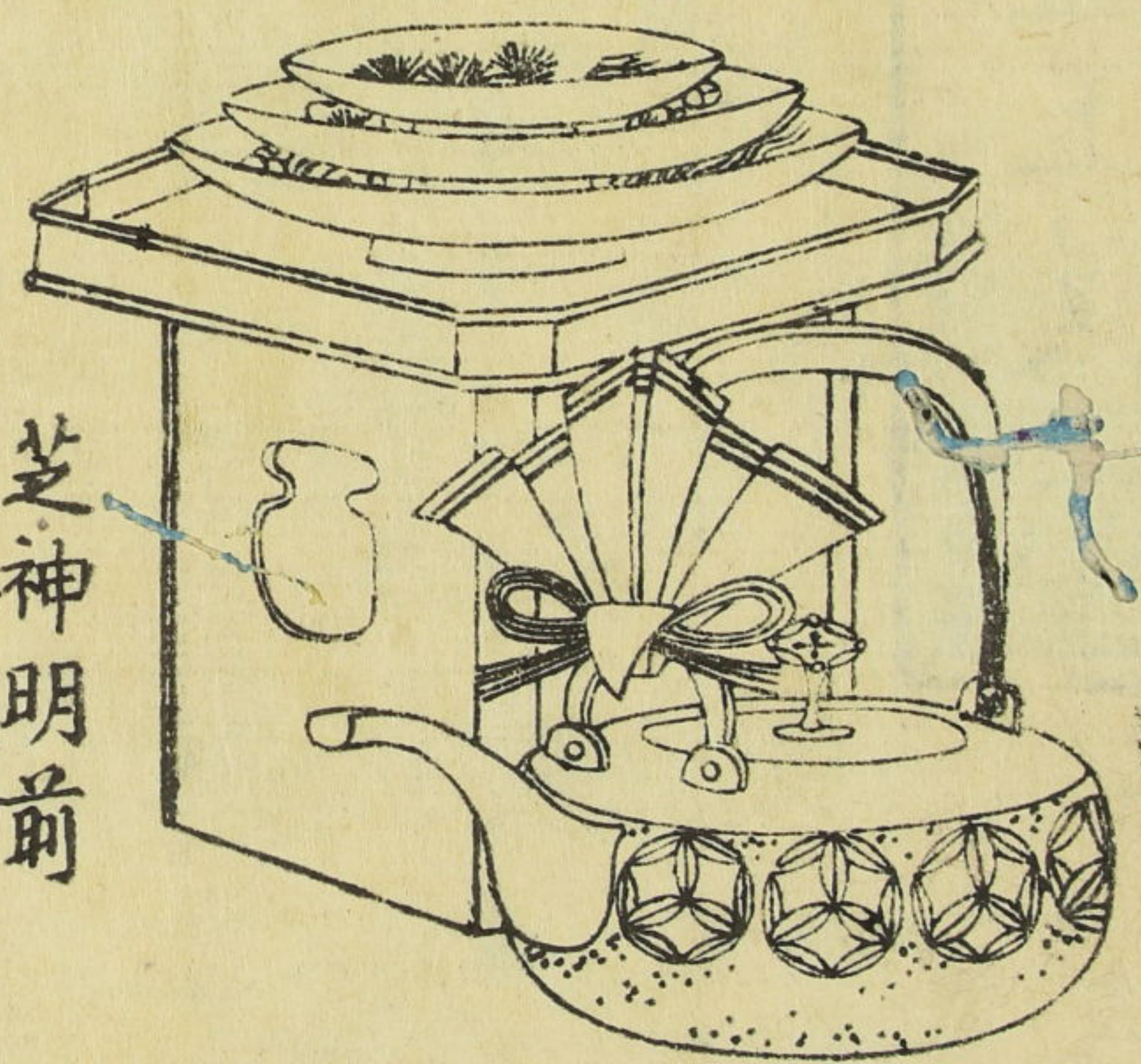
黄金水六編

黄金水

大盞盃

上冊

爲永春水作
 一雄齋國輝画



芝神明前
 泉市板



引物屋
無多六
娼妓
具連濱



侍
遊世
由良葉末之亟光輝

青台六六給

青台六六給



柿家の息女
落穂姫



晋子
其角



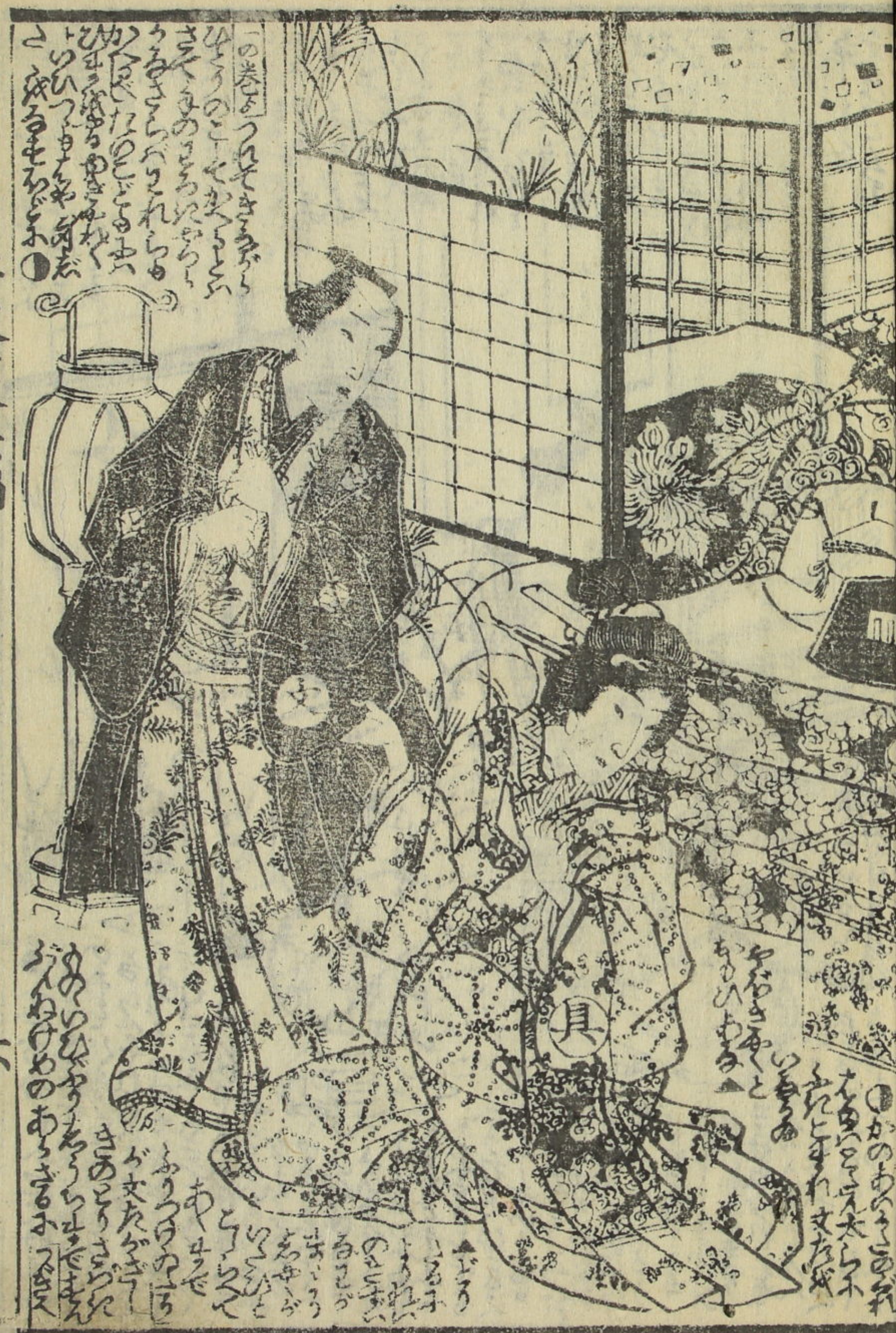
山崎 貞一

五



山崎 貞一

六



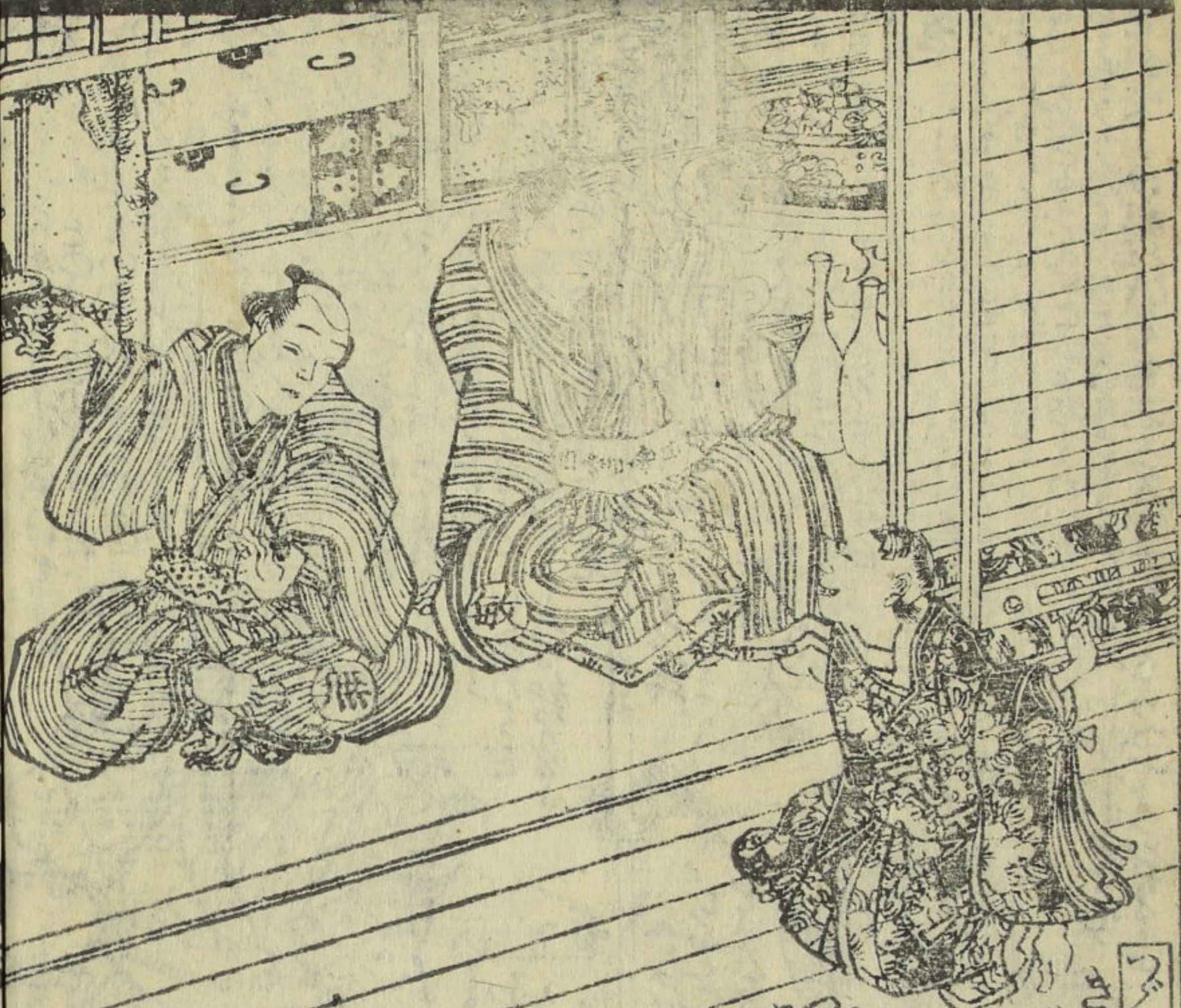
高木又下壱

のまはつてしきまはつて
 ひろのこやむらさき
 さきものさきもの
 うらなからうらな
 ひろのこやむらさき
 さきものさきもの
 うらなからうらな

のまはつてしきまはつて
 ひろのこやむらさき
 さきものさきもの
 うらなからうらな

具

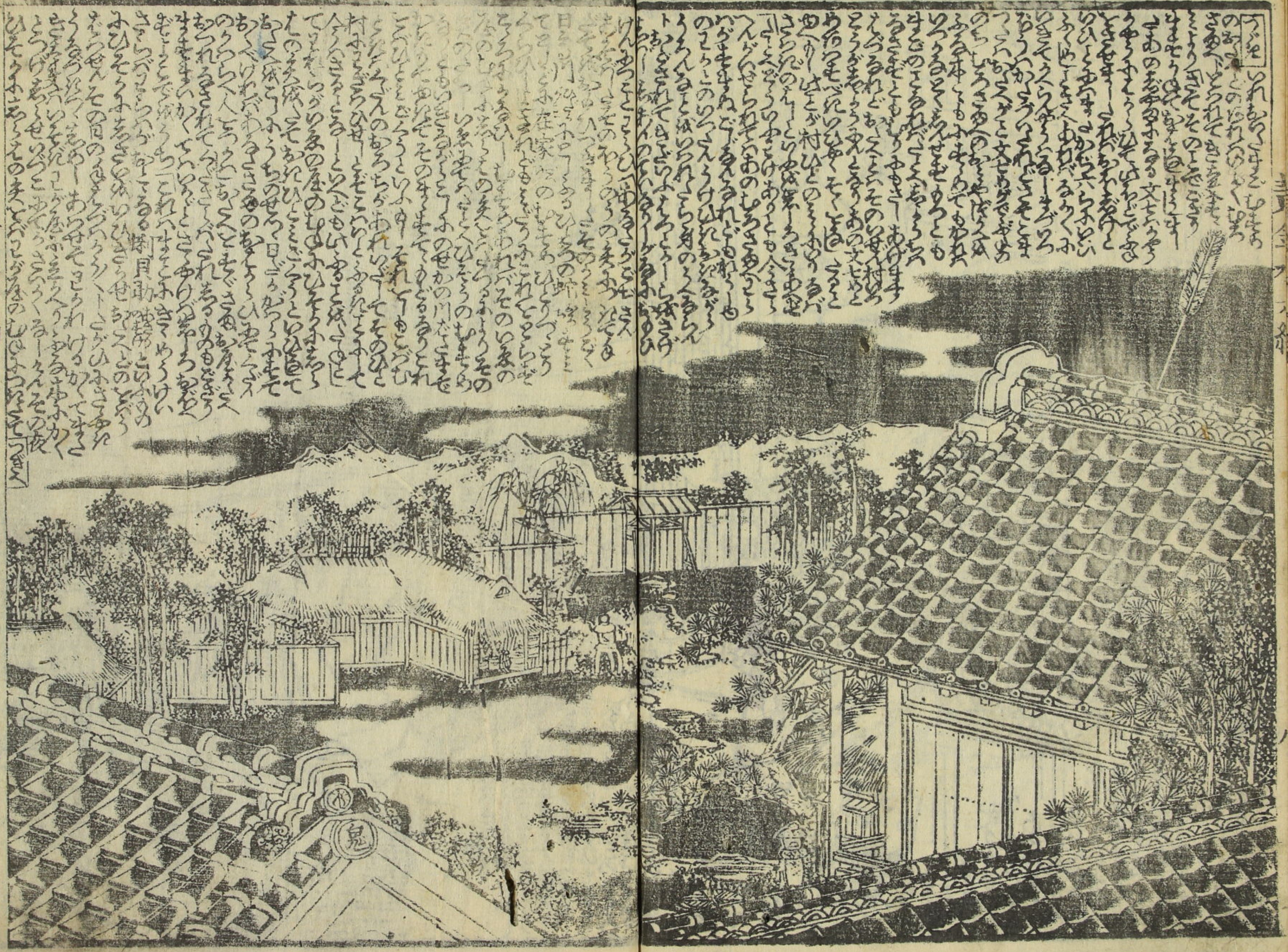
のまはつてしきまはつて
 ひろのこやむらさき
 さきものさきもの
 うらなからうらな



高木又下壱

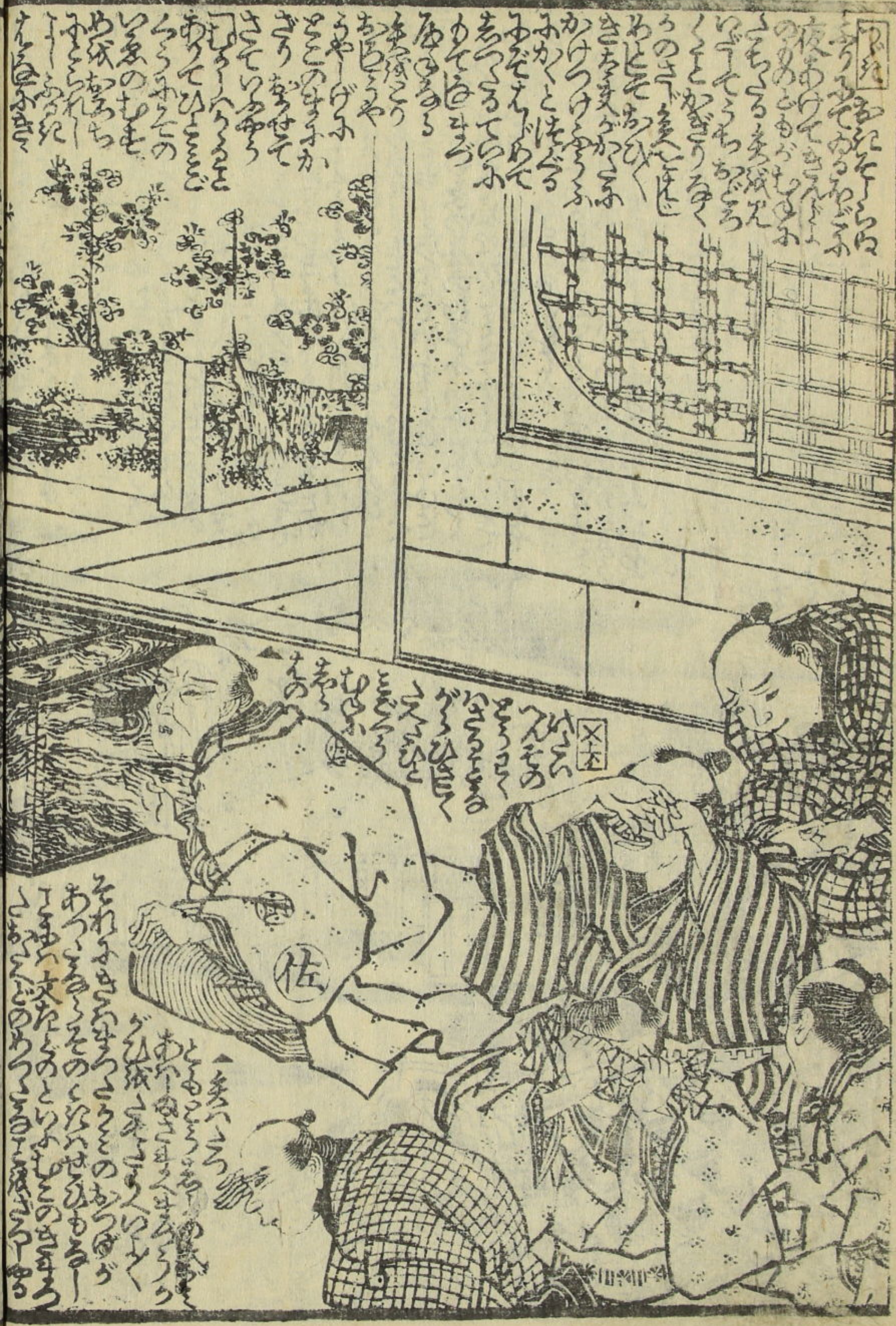
のまはつてしきまはつて
 ひろのこやむらさき
 さきものさきもの
 うらなからうらな

のまはつてしきまはつて
 ひろのこやむらさき
 さきものさきもの
 うらなからうらな



Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns across the top of the pages. The text appears to be a commentary or a letter related to the illustration below. The right page contains approximately 15 columns of text, while the left page contains approximately 12 columns. The characters are densely packed and difficult to read without specialized knowledge of the cursive script.

Vertical text on the left margin, likely a page number or a section title. The characters are partially obscured but appear to include '廿' (20) and '冊' (volume).



春水作
國貞画



曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作

黃金水大盡齋



同

女郎花五色石臺

十篇大尾

柳亭種彦作

琴聲義人錄

同

小女郎如怨芋環

三篇大尾

笠亭仙果作

根源實業

柳下亭種員作

兎雷也豪傑譚

柳下亭種久作

一休草紙

假名
反吉

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a list or inventory, surrounding the central illustration.



黄金水六編

黄金水六編

下の巻

為多

真水化

一雄商



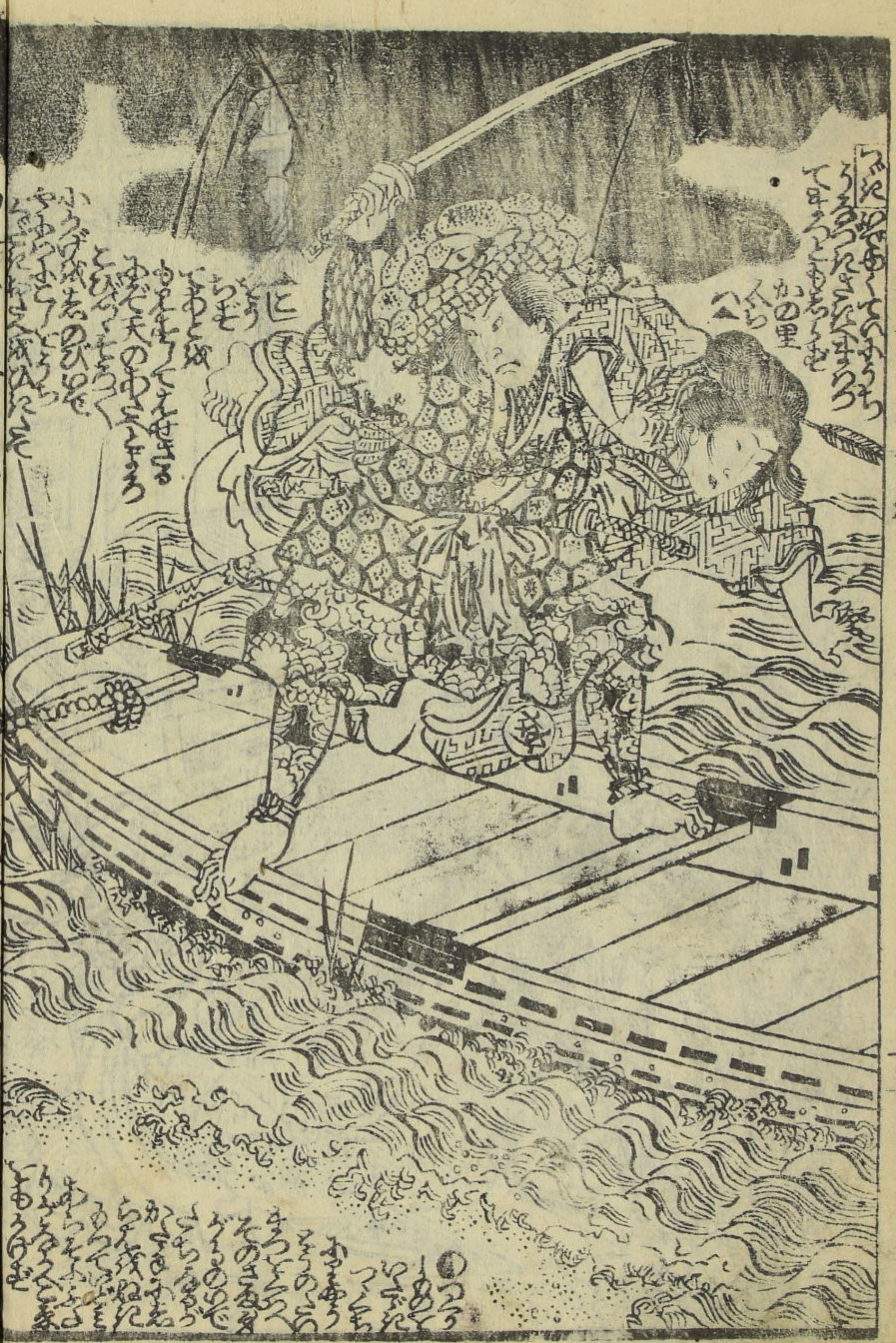
輝魚

甘味



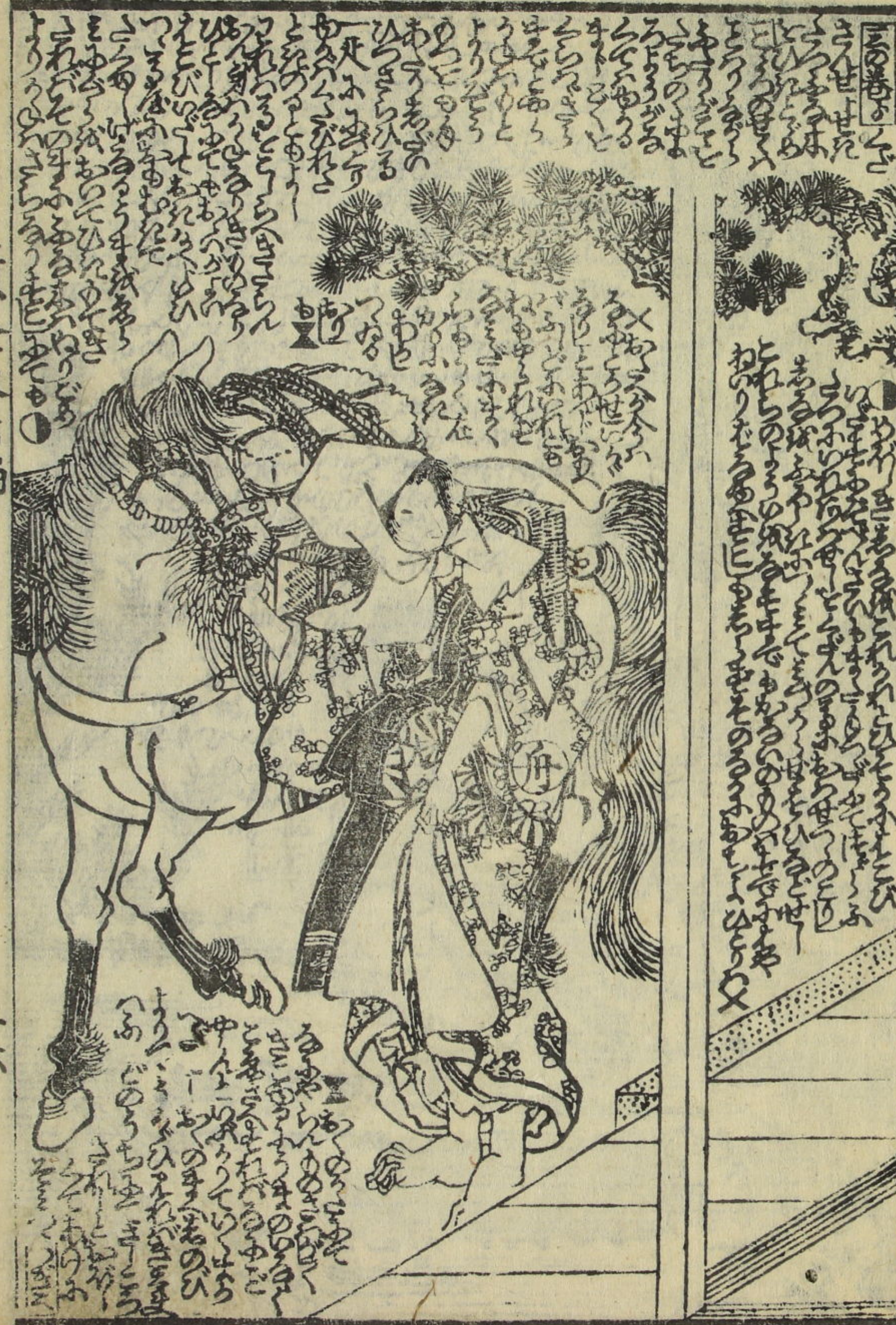
此の世にあらば
 心もたれど
 中つきの
 けりて
 異形
 乙女の
 心
 中つきの
 けりて
 異形
 乙女の
 心

乙女の
 心
 中つきの
 けりて
 異形
 乙女の
 心



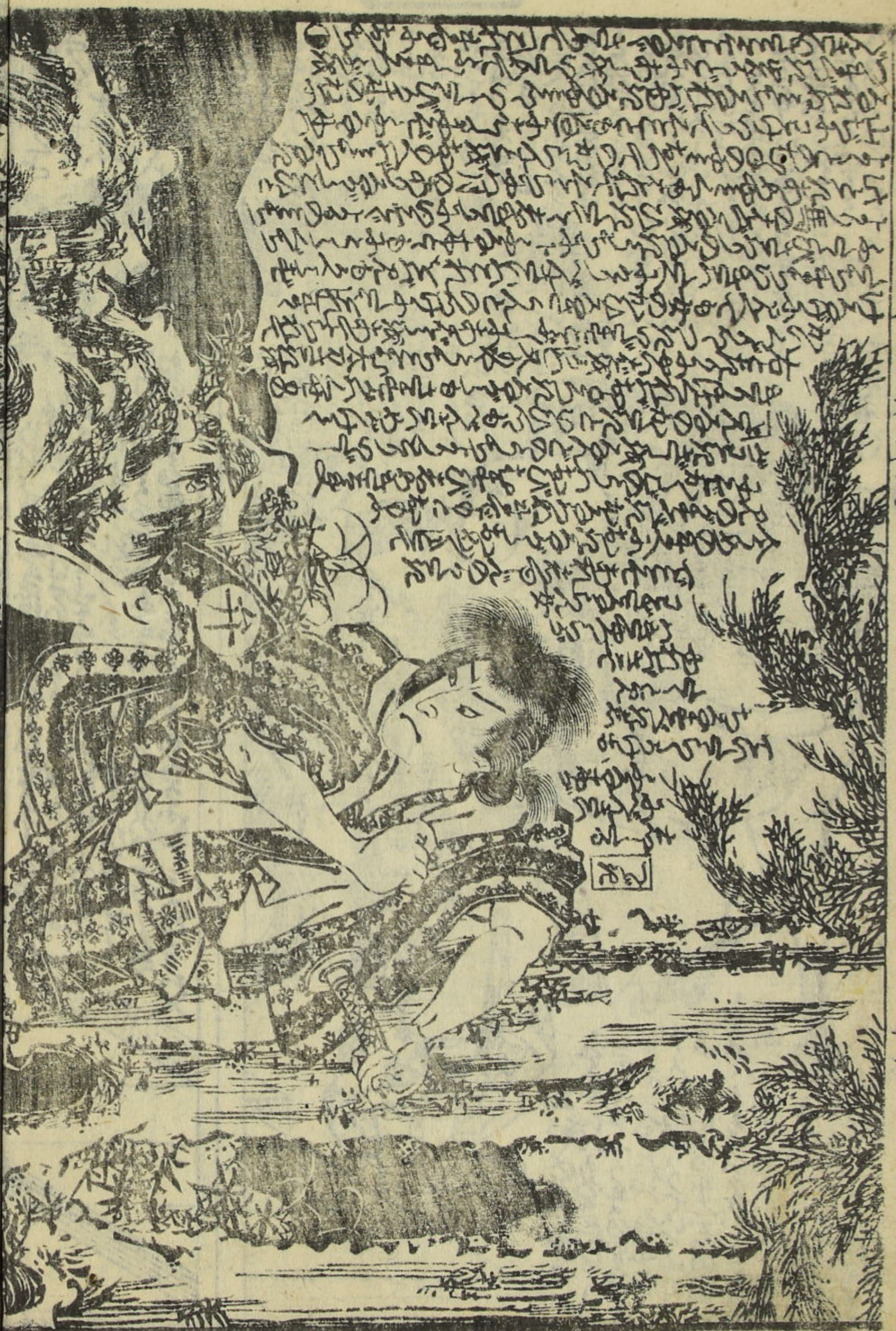
乙女の
 心
 中つきの
 けりて
 異形
 乙女の
 心

乙女の
 心
 中つきの
 けりて
 異形
 乙女の
 心





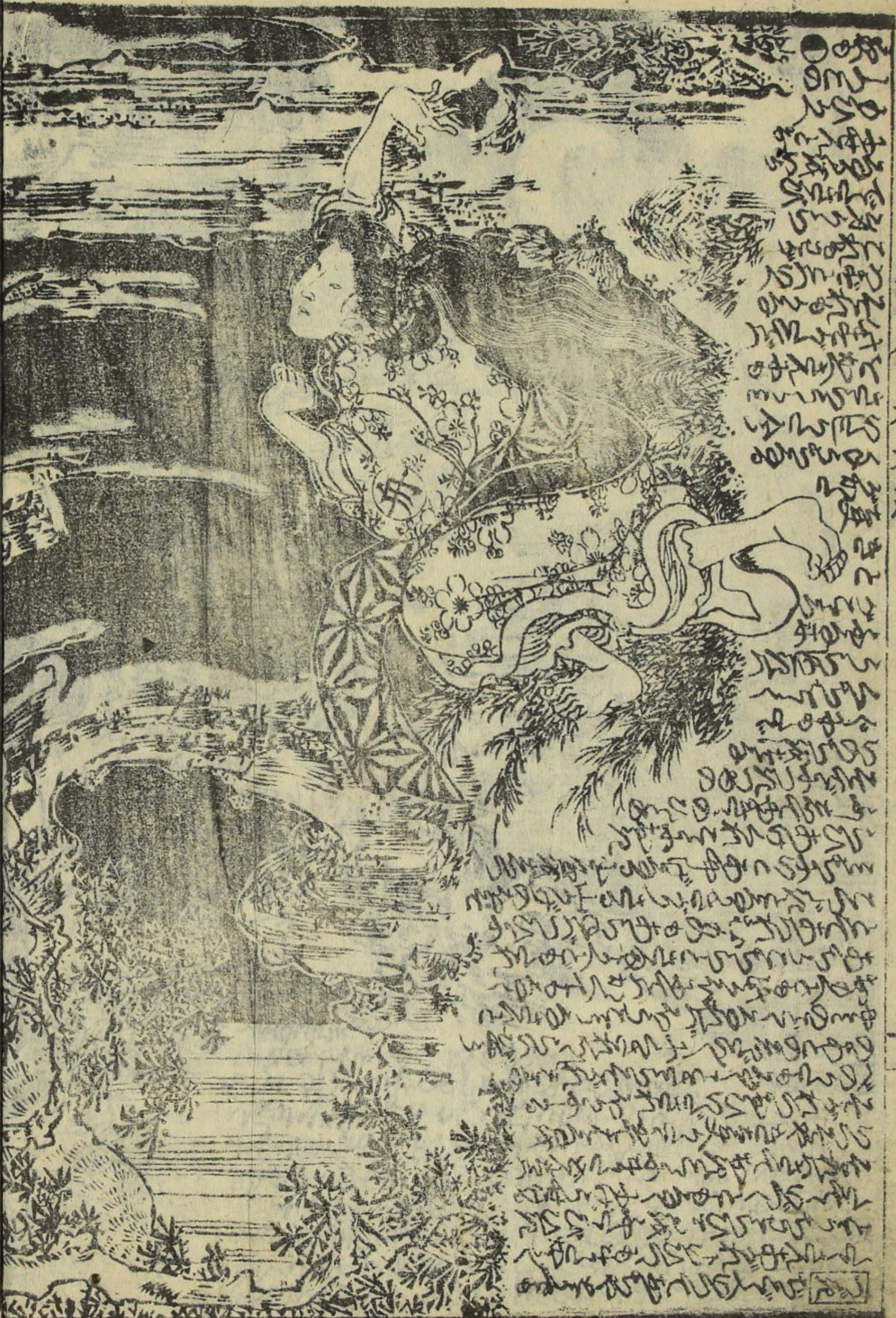
此山名曰...
 其水曰...
 其地曰...
 其民曰...
 其俗曰...
 其風曰...
 其氣曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...



此山名曰...
 其水曰...
 其地曰...
 其民曰...
 其俗曰...
 其風曰...
 其氣曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...



Vertical Japanese text columns on the left side of the illustration, likely providing a narrative or commentary on the scene.



Vertical Japanese text columns on the right side of the illustration, likely providing a narrative or commentary on the scene.



書金水六

三

為永春水作

一壽祿國貞出



中返舎 一九作
滑稽首道中膝栗毛

柳水亭着水作
豊時田秋漣新雁

柳水亭種清作
不思議塚小説櫻

柳水亭種清作
同 狂田姉妹新白石

同
風俗淺間ヶ嶽

関太郎 鈴ヶ譚

五篇大尾

出版人 京橋區銀座四丁目三番地
山中喜太郎

スソ
モソ

